

# 第1部 将来構想





# 1 世界の潮流と環境変化

日本は、そして世界は今、時代の大きな転換期にあります。

国内では、人口減少、超高齢化への対策と、それらに伴う社会保障制度など様々な経済社会システムの変革が求められています。東京一極集中の是正はその最たるものです。

世界に目を向ければ、温室効果ガスの排出量増加が原因とみられる地球温暖化や異常気象への対応が世界共通のテーマとなっているほか、経済のグローバル化に伴って生ずる貧困・格差の解消や感染症の拡大防止、食料・水の安全保障、生態系の保全なども重要な課題です。

特に、今回、地球規模で拡大したCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）は、グローバル時代の新たなリスクを顕在化させ、また、大都市の脆弱性と社会全体に及ぼす影響の大きさを改めて認識させる契機となりました。国際社会が一致協力して感染症対策を徹底するとともに、新たな国際分業体制の確立や、リスクに強い「分散型国家」への転換が求められます。

また、国内外を問わず、AI、ロボット等の技術革新は私たちの生活の便利さや経済発展に寄与すると期待される一方、人間の仕事や働き方、移動や生活、健康、さらには価値観や倫理に至る様々な分野において大きな影響を与えられと考えられます。

地域、人類、そして地球全体の「持続可能性」が鋭く問われています。

2015年の国連サミットでは、2030年を目標年次とする「持続可能な開発目標（SDGs）」が全会一致で採択されました。発展途上国だけでなく先進国も含めた世界共通の目標であり、経済効率性のみを重視してきた従来型の価値観からの転換が求められています。

一方、このビジョンが描こうとする2040年頃には、北陸新幹線やリニア中央新幹線が全線開業し、福井県の立地条件が飛躍的に向上していると考えられます。

また、国内市場が縮小に向かう日本、そして福井県にとって、新興国をはじめとする海外市場の成長や食料需要の増加は、ビジネス拡大のチャンスにもなります。

時代の転換期にあり、先が見通しにくい時代であるからこそ、そしてまた、移動や通信のネットワークが発達し、地方が世界と直結する時代を迎えているからこそ、地域の価値や誇りとなる「福井らしさ」を確立し、時代の変化に柔軟に対応しながら、幸福度日本一の「ふるさと福井」をさらに良い姿で次世代に引き継いでいかなければなりません。

そのために必要な国内外の潮流や変化を展望します。

## (1) 世界の潮流

### 潮流1 世界人口の増加

日本の人口は減少局面に入っていますが、インドをはじめとする新興国の人口拡大によって世界人口は今後も増加を続け、国連では、現在の約77億人から、2050年には97億人、2100年には109億人に増加し、そこでピークに達すると予測しています。

新興国の人口増加により、各国の経済発展が期待される一方、国際情勢の変化・不安定化や、経済活動の活発化に伴うエネルギー需要の増加と温室効果ガスの排出拡大、食料需給の逼迫が予測され、私たちの暮らしへの影響が懸念されます。

### 潮流2 新興国の成長と経済のグローバル化の進展

2018年12月、日本も参加するTPP11<sup>\*</sup>が発効しました。世界的には一部に保護主義的な動きもありますが、大きな方向としては、貿易・投資など多国間の経済連携はさらに拡大するとともに、アジア、アフリカ等の新興国の経済発展や技術革新等により、今後も世界経済は成長を続けると見られています。

相対的な地位の低下が見込まれる日本は、RCEP<sup>\*</sup>をはじめとする経済連携や、インバウンドのさらなる推進による海外の活力取込みを目指しています。

福井県としても、観光面を含め、海外市場の積極的な開拓・獲得が重要です。

※TPP11…アジア太平洋地域11か国が参加する経済連携協定

※RCEP…ASEAN10か国と日、中、韓、印、豪、NZの計16か国が締結を目指す経済連携

また、グローバル化の進展に伴い、感染症の地球規模の蔓延という新たなリスクが顕在化しています。

人類はこれまでも様々な感染症と戦ってきましたが、今後も発生が予想される未知の感染症のリスクに備え、検査・医療体制のさらなる充実を図るとともに、国際的なサプライチェーンの見直しや経営の多角化、さらには、テレワークやオンライン授業など、社会変革への取組みも必要です。

### 世界人口の推移

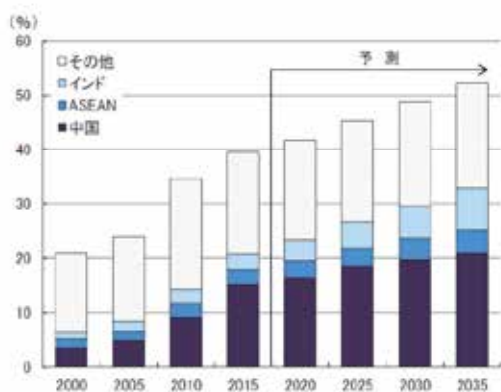
- 世界人口は、現在の7.7億人から2050年の9.7億人へと、今後30年で2.0億人の増加
- 増加の過半は、インド、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ民主共和国、エチオピア、タンザニア連合共和国、インドネシア、ウガンダ、エジプト（予測される人口増が多い順）といったアジア・アフリカ諸国で発生
- インドは、2027年頃、中国を抜いて世界で最も人口が多い国になると予想



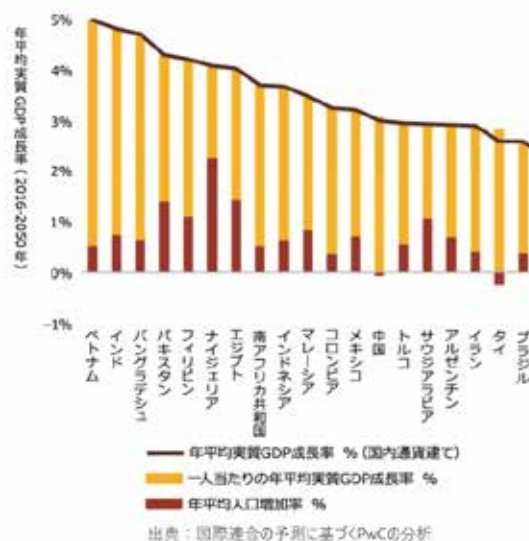
### アジア、アフリカなど新興国・途上国の経済成長

- 2030年代前半には新興国が世界の経済規模の50%を超えると予想
- 2050年にかけて、ベトナムを始めとするアジア諸国は成長継続。ナイジェリアを始めとするアフリカ諸国も伸長

世界に占める新興国・途上国の名目GDPシェアの予測



2016-2050年の年平均実質GDP成長率の予測



### 潮流3 エネルギー需要の増加と地球温暖化

世界のエネルギー消費量は、各国の経済発展や石油利用の拡大等によって増加し、過去50年間で約3倍に拡大したとされています。これに伴って温室効果ガスの排出も増え続けており、2018年の世界の排出量は過去最高（553億トン）となりました。国連環境計画の報告書によると、このままでは今世紀末には気温が3.4～3.9℃上昇し、異常気象の増加、生態系の変化など極めて大きな影響が生じるおそれがあります。パリ協定（2015年）に基づき、日本は今世紀後半のできる限り早期に二酸化炭素排出ゼロを実現する長期戦略を掲げるなど、世界各国が対策を進めています。近年、地球温暖化が原因と考えられる豪雨、大型台風や巨大ハリケーン、猛暑や干ばつなどの異常気象が世界各地で頻発しており、国際社会で一致した対策強化が不可欠です。

福井県としても、原子力発電の安全確保とともに、県民の生命や財産を守る県土の強靭化を進める必要があります。さらに、CO<sub>2</sub>フリーエネルギーの先進県として、二酸化炭素の排出抑制に向けて、再生可能エネルギーの導入等促進を積極的に進めていくことが必要です。

### 潮流4 食料需要の増加

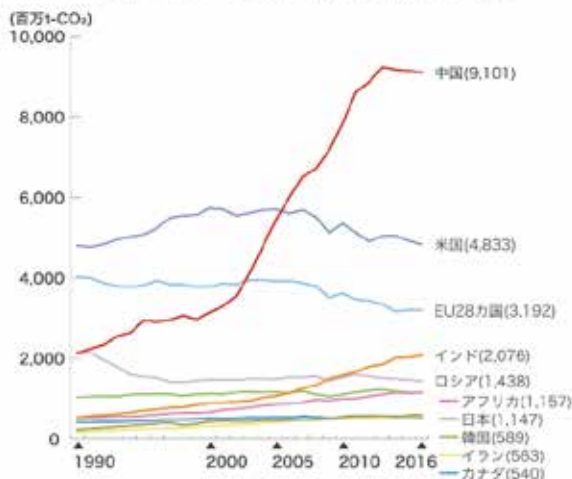
世界の食料需給は、世界人口の増加や新興国の経済発展による食料需要増加、異常気象の頻発、生態系の変化、水資源の制約など様々な要因によって将来逼迫するおそれが指摘されています。日本の食料自給率は現在、37%（熱供給量ベース）と長期的に低下傾向にあり、国内生産と輸入、備蓄を適切に組み合わせた食料の安定確保が課題です。

福井県としても、将来にわたる食料の安定確保、食の安全確保に向け、食料自給率の維持・向上は重要であり、農地や森林、水産資源の保全に力を入れるとともに、米・園芸などの農業生産の多角化や養殖の増大、輸出拡大等による農林水産業の振興が必要です。

### 温室効果ガスの増加と平均気温の上昇

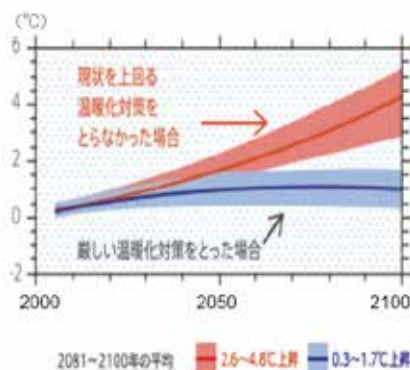
- エネルギー起源温室効果ガスの排出量は、先進国で減少。中国、インド、アフリカにおいて大幅増加
- 今世紀末の世界平均気温は、対策が不十分な場合、現在よりも2.6°C～4.8°C上昇する可能性

世界のエネルギー起源温室効果ガス排出量の推移



出典：CO<sub>2</sub> EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION Highlights(EA)  
 ※エネルギー起源温室効果ガス排出量の多い国・地域のトップ10を抽出  
 ※カッコ内の数字は、2016年排出量（百万トン）

21世紀末の世界平均気温の変化予測

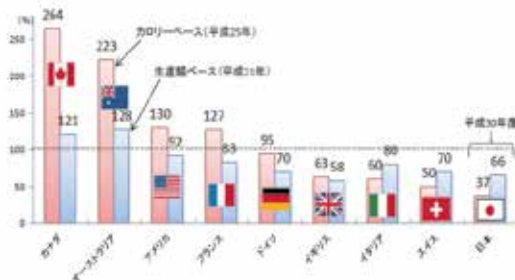


出典：IPCC第5次評価報告書より作成

### 日本の食料自給率

- 我が国の食料自給率は長期的に継続して下落。現在は先進国の中で最低の水準
- 本県の食料自給率は、生産額ベースで、20年前の60%台から50%台に低下

日本の食料自給率の推移と諸外国との比較



食料自給率の推移 (福井県)



出典：農林水産省統計

**潮流5 持続可能な開発目標（SDGs）**

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

2030年を年限とする17のゴール（意欲目標）のもとに、169のターゲット（達成目標）、232の指標が定められており、日本においては、「あらゆる人々の活躍の推進」、「健康・長寿の達成」など8つの優先課題を掲げた実施指針を策定し、取り組みを進めています。

SDGsの前身は、開発途上国を対象とする「MDGs」（ミレニアム開発目標）でした。2000年から2015年にかけて国連を中心に進められましたが、目標のほとんどは達成されませんでした。この反省を活かしながら策定されたのがSDGsであり、先進国を含むすべての国が行動する「普遍性」が大きな特徴です。

また、SDGsの17のゴール、あるいは各ターゲットや指標は、実際の社会の中にあって相互に関連しています。社会、経済、環境の課題に総合的に取り組む、即ち部分最適ではなく、全体最適を志向することも特徴的であり、経済効率性のみを重視してきた従来型の価値観からの転換が強く求められています。

**持続可能な開発目標（SDGs）**

■ 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「**誰一人取り残さない**」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**。（その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。）

|   |  |
|---|--|
|  <p>① 貧困 (赤)</p> <p>② 飢餓 (茶)</p> <p>③ 健康 (緑)</p> <p>④ 教育 (赤)</p> <p>⑤ ジェンダー (赤)</p> <p>⑥ 水・衛生 (青)</p>                  | <p><b>普遍性</b> 先進国を含め、<b>全ての国が行動</b></p> <p><b>包摂性</b> 人間の安全保障の理念を反映し「<b>誰一人取り残さない</b>」</p> |
|  <p>⑦ エネルギー (黄)</p> <p>⑧ 経済成長・雇用 (赤)</p> <p>⑨ 産業・革新 (赤)</p> <p>⑩ 社会的不平等 (紫)</p> <p>⑪ 住環境・都市 (黄)</p> <p>⑫ 消費・生産 (黄)</p> | <p><b>参画型</b> <b>全てのステークホルダーが役割を</b></p>   |
|  <p>⑬ 気候変動 (緑)</p> <p>⑭ 海洋資源 (青)</p> <p>⑮ 陸上資源 (緑)</p> <p>⑯ 平和 (青)</p> <p>⑰ 実施手段 (青)</p>                               | <p><b>統合性</b> 社会・経済・環境に<b>統合的に取り組む</b></p> <p><b>透明性</b> <b>定期的</b>にフォローアップ</p>            |

前身：ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）

- ▶ 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- ▶ 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。  
 (①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)

○ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。  
 ○ 極度の貧困半減（目標①）やHIV・マラリア対策（同⑥）等を達成。  
 × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減（同④、⑤）は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。

環境  
(リオ+20)

人権

平和

（外務省資料）



## SDGsの17のゴール（意欲目標）

|   |                      |  |
|---|----------------------|--|
|    | 1 貧困をなくそう            | あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる   |
|    | 2 飢餓をゼロに             | 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する  |
|    | 3 すべての人に健康と福祉を       | あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する   |
|    | 4 質の高い教育をみんなに        | すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する  |
|    | 5 ジェンダー平等を実現しよう      | ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う   |
|    | 6 安全な水とトイレを世界中に      | すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する   |
|    | 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する                                      |
|   | 8 働きがいも経済成長も         | 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する              |
|  | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう    | 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る                              |
|  | 10 人や国の不平等をなくそう      | 各国内及び各国間の不平等を是正する  |
|  | 11 住み続けられるまちづくりを     | 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する  |
|  | 12 つくる責任つかう責任        | 持続可能な生産消費形態を確保する   |
|  | 13 気候変動に具体的な対策を      | 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる   |
|  | 14 海の豊かさを守ろう         | 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する   |
|  | 15 陸の豊かさを守ろう         | 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する        |
|  | 16 平和と公正をすべての人に      | 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する |
|  | 17 パートナーシップで目標を達成しよう | 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する                                       |

## (2) 国内・県内の環境変化・見通し

**変化1** 人口減少

日本の総人口は、少子化の進行等によって2008年(約1億2,800万人)をピークに減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所は、2040年には約1億1,090万人(13%減)となると推計しています。少子化の要因は様々ですが、出生率の低い東京圏への若年層の流出が拍車をかけていることは明らかです。

福井県は、2000年(82.9万人)をピークに減少を続けており、2040年には64.7万人程度に減少すると推計されています。

一方、65歳以上の人口とその割合は上昇しており、2040年には団塊ジュニア世代が65歳を迎えることから、福井県においても65歳以上人口は24.1万人(37.2%)とピークを迎えると見込まれています。

人口の減少や構成変化は、産業活動や消費の縮小をもたらしかねないほか、社会保障費が増大するなど、地域経済・財政への影響が懸念されています。また、若年層の減少は、様々な担い手の不足や地域コミュニティの衰退にもつながりかねません。

さらに、都市部への人口集中と過密が、感染症のリスクを拡大させることが明らかになったことから、国においては国土政策を早急に見直し、大学や企業の地方への移転を進め、大都市圏から地方へ人口を移動させることが急務となっています。

結婚・子育て応援等の自然減対策、学生の県内就職、Uターン促進等の社会減対策を強化・継続するとともに、AI、自動走行等の未来技術の活用など、人口減少下でも幸せに暮らし、地域や文化を継承するための適応戦略を進める必要があります。

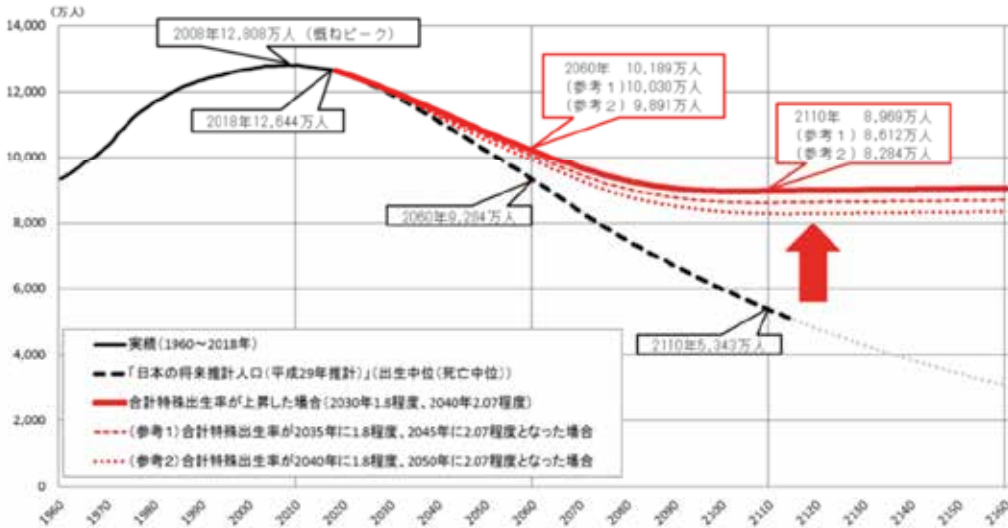
また、児童虐待の根絶や、経済的格差の拡大・再生産の抑止など、子どもたちが健やかに成長できる環境をつくとともに、年齢、性別・性差、国籍、障がいの有無等によらず、県民一人ひとりが社会に様々な形で参加し、自分らしく輝ける共生社会をつくっていくことも重要です。



※国立社会保障・人口減少問題研究所による推計  
(「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」)

### 総人口の将来見通し（全国）

- 我が国の人口は2008年の12,808万人をピークに、2040年には11,090万人、2060年には約9,300万人まで減少する見通し
- 仮に合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的（2100年ごろ）には9,000万人程度でおおむね安定的に推移するものと推計

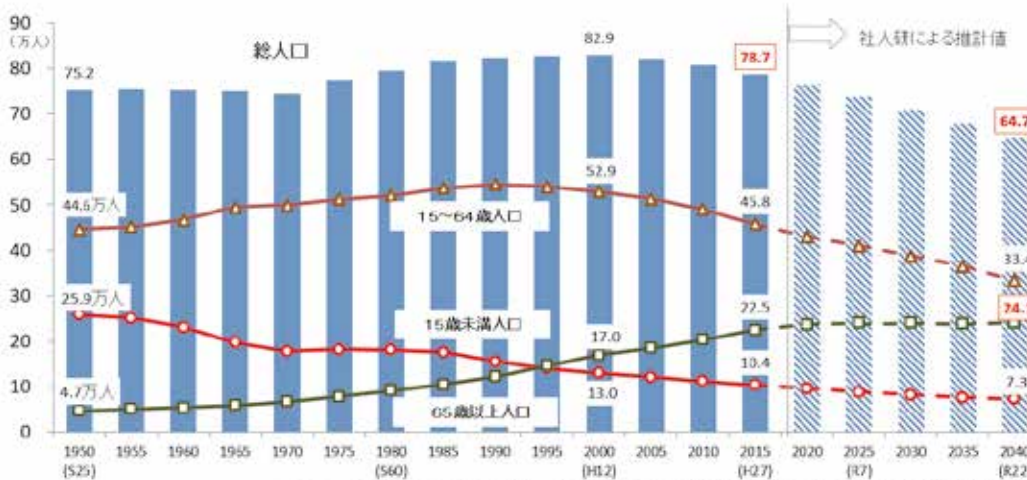


出典：我が国の人口の推移と長期的な見通し「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年改訂版）

### 総人口の将来見通し（福井県）

- 福井県の人口は、2000年の82.9万人がピーク。近年の人口減少対策により、将来人口予測は改善が図られたが、2040年には64.7万人（▲22%）の予測（当初予測は、63.3万人）
- 65歳以上人口は2040年頃にピーク（24.1万人、高齢化率37.2%）を迎える  
15歳未満人口、15～64歳人口は一貫して減少

人口推移（福井県）



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口（2018年推計）」

## 〔人口減少・少子高齢化と持続可能な集落づくり〕

人口減少・少子高齢化は、集落の今後のあり方に大きな影響を与えます。

県の調査によると、高齢化集落（65歳以上が人口の半数以上を占める集落）は、10年前（2009年）の104集落（全集落の3.6%）から238集落（同8.2%、令和元年）に倍増するとともに、将来衰退すると考えている集落が6割近くに上ることが分かりました。今回行った県民アンケートにおいても、将来心配なことを尋ねる設問では、「人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある」が最多（63%、複数回答）となりました。（付属資料参照）

人口減少・少子高齢化は、市町や地域によって進み方や様相が異なり、一般に農山漁村部では都市部に先行して進む傾向にあります。一方、福井市の中心市街地においても担い手不足により自治会を解散する事例が初めて生じるなど、その影響は都市部も例外ではないことが明らかになってきています。農村部・都市部を問わず、空き地・空き家や耕作放棄地等の増加も課題です。

集落や地域コミュニティは、日常の支え合いや様々な地域活動、あるいは災害時の避難・生活支援など、県民の暮らしに極めて重要な役割を果たしています。各集落において危機意識を共有し、将来のあり方を考えるとともに、周辺集落との協働やリーダー育成、外部人材や未来技術の活用など、持続可能な集落づくりに向けて検討・行動していくことが重要です。

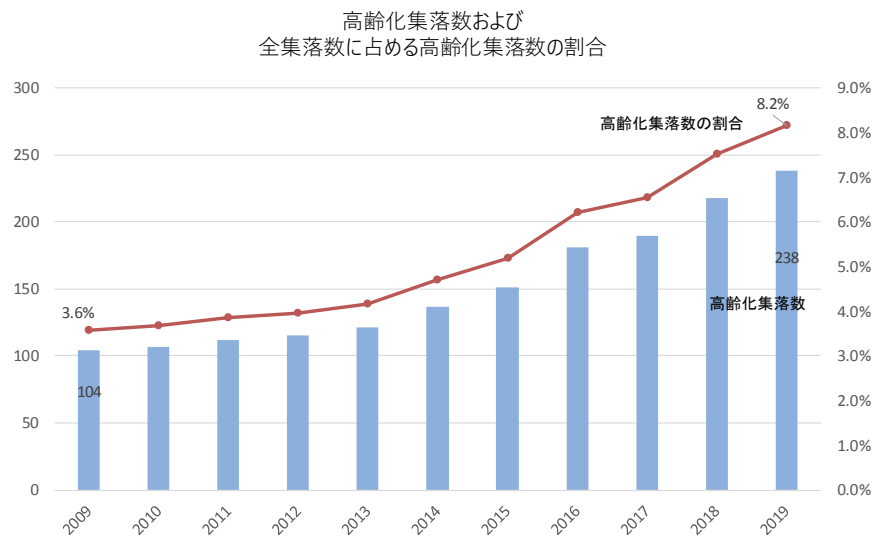
## 〔自治体経営の効率化など持続可能性確保〕

総務省の有識者研究会「自治体戦略2040構想研究会」は、その報告書（2018年7月）において、2040年頃の自治体経営について、若年労働力の大幅な減少を背景に、『従来の半分の職員でも自治体が本来担うべき機能を発揮できる仕組みが必要』と提言しました。

実際に、近年の出生数が団塊ジュニア世代の半分以下にとどまり、将来の担い手が大幅に減ることは明らかであり、税収の縮小等も懸念されます。少ない労働力を民間と分かち合いながら、これまで以上に、行政業務の選択と集中や未来技術の活用等による効率化など業務のあり方を変革していくとともに、新たな公・共・私の共同体制を構築するなど、県と市町が協働し、持続可能な形で住民サービスを提供し続けることのできる体制を整えていくことが必要です。

### 高齢化集落数・割合

○高齢化集落数は、2009年の104集落から、2019年には238集落となり、ここ10年で倍増



※高齢化集落数  
65歳以上の高齢者が住民の半数以上を占める集落 出典：福井県調べ

## 変化2 長寿命化（「人生100年時代」の到来）

医療の発達等により、日本人の平均寿命は上昇し続けています。2040年には女性は89.63歳、男性は83.27歳になると予想され、海外の研究では、日本で2007年に生まれた子供の半数は107歳より長く生きる、いわゆる「人生100年時代」が今後到来するとされています。

福井県は、男女ともに平均寿命、健康寿命が全国上位の健康長寿県であり、100歳以上の県民も18人（1990年）から507人（2015年）に急増しています。

企業の定年を70歳以上に引き上げる動きがあるように、長寿命化は、働き方や暮らし方に大きく影響します。健康・体力面から見ても、現在の75歳は60年前の65歳に相当すると試算される（平均余命等価年齢<sup>※</sup>）ことなどから、年齢で高齢者を一律に定義し、支える側・支えられる側に区分する従来型の高齢者観から脱却していく必要があります。

※平均余命等価年齢：ある年のある年齢の平均余命を基準とし、別の年にそれと等しい平均余命をもつ年齢のこと

一方、年齢とともに医療・介護の必要性は一般的に高まり、認知症の発症リスクも上昇します。家庭での介護負担の増大や、増加する一人暮らし高齢者への対応が課題となります。また社会全体としても、社会福祉にかかる費用の増加や、介護士など医療・福祉分野を支える人材の不足が懸念されます。すべての人が生涯にわたって安心して暮らせる環境と、持続可能な社会保障制度の確立が求められます。

長寿命化に備え、技術革新を活かして人口減少下でも医療・介護・福祉サービスを安心して利用できる環境を整えることはもとより、生涯健康を志向し、年齢を重ねても元気に生活できる社会、また、常に好奇心を持ち続け、自身の能力や知識を磨きながら柔軟に成長していく社会をつくっていくことが重要です。



### 長寿命化の進展

- 海外の研究では、「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きる」と推計
- 1990年に18人だった本県の100歳以上の高齢者は、2015年には507人（約28倍）と急増



出典：第1回人生100年時代構想会議資料（H29.9）



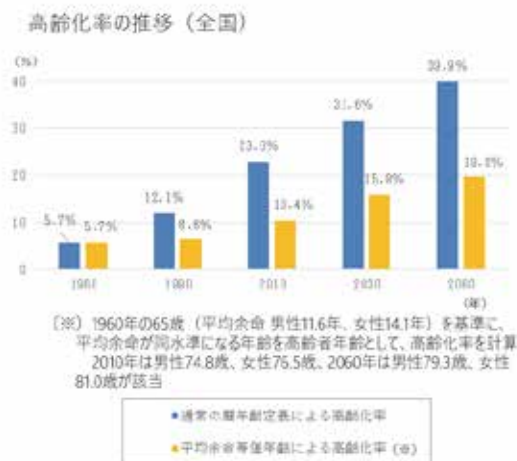
出典：国勢調査

### 平均寿命・健康寿命と高齢化率

- 2001年から2040年にかけて、平均寿命・健康寿命とも5歳程度延伸
- 健康状態（平均余命等価年齢）を基準にすると、現在の75歳は1960年の65歳に相当。高齢者年齢を定義し直せば、高齢化率は半分程度に



出典：高齢社会白書（H30）  
「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」資料



〔※〕1960年の65歳（平均余命 男性11.6年、女性14.1年）を基準に、平均余命が同水準になる年齢を高齢者年齢として、高齢化率を計算。2010年は男性74.8歳、女性75.5歳、2060年は男性79.3歳、女性81.0歳が該当

出典：『日本の人口動向とこれからの社会』（2019.5）  
森田明監督、国立社会保障・人口問題研究所編

**変化3 大交流化（新幹線、高速道路等の交通網整備）**

新幹線、高速道路といった高速交通網の整備進展は、福井県の大きな特長です。

北陸新幹線は、2023年春に迫った福井・敦賀開業から切れ目なく敦賀・新大阪間の工事に着手し、2031年春（北海道新幹線札幌開業）頃までの全線開業を目指しており、中部縦貫自動車道（大野油坂道路）も福井・敦賀開業と同時期の開通を求めています。リニア中央新幹線も、名古屋開業（2027年予定）を経て、2040年には大阪までつながっていることが期待されます。

こうした整備進展により、福井県は首都圏と直結するとともに、中京、関西との時間距離も短縮され、三大都市圏とのアクセスが極めて有利な地域になります。また、北陸新幹線の開通は、嶺南・嶺北の一体化や北陸圏の連携強化の基盤となるだけでなく、リニアとあわせた大環状ルートの形成により、甲信越地域や東北、中国、九州にまで交流圏域を広げます。国際物流ターミナルの拡張整備が進む敦賀港や、福井港、本県の空の玄関口である小松空港も加えれば、陸・海・空の立体的な交通・物流網が整うこととなります。

福井県は、まさに国内外との大交流を推し進める100年に一度のチャンスを迎えています。この機を、観光誘客や市場開拓・販路拡大、都市人材の誘致など地域・産業の活性化に最大限に活かしていくことが必要です。特に、2021年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪・関西万博が開催され、訪日外国人のさらなる増加が見込まれています。福井県としても、三大都市圏との近接性はもとより、日本海側の中心に位置し、アジアに開けた本県の立地条件も活かしながら、隣接府県とも力を合わせ、インバウンドの拡大など海外市場を積極的に獲得していくことが重要です。

また、福井・敦賀開業時に4つ、全線開業時に1つ、計5つの新幹線駅が県内に設置されることも大きな特長であり、市町とともにまちづくりを加速していく好機です。







## 〔巨大地震と国土の複軸化〕

2011年3月に発生した東日本大震災（M9.0）は、死者・行方不明者合わせて1万8千人を超える巨大災害でした。発生から9年経った今なお、多数の方が避難生活を続けています。

政府の中央防災会議は、今後30年以内に、首都直下地震が70%、南海トラフ地震が70～80%の確率で発生すると推定しています。東京一極集中が加速する中、こうした巨大地震がもたらす人的・経済的損失は極めて甚大であり、土木学会は「国難レベルの災害」と指摘しています。

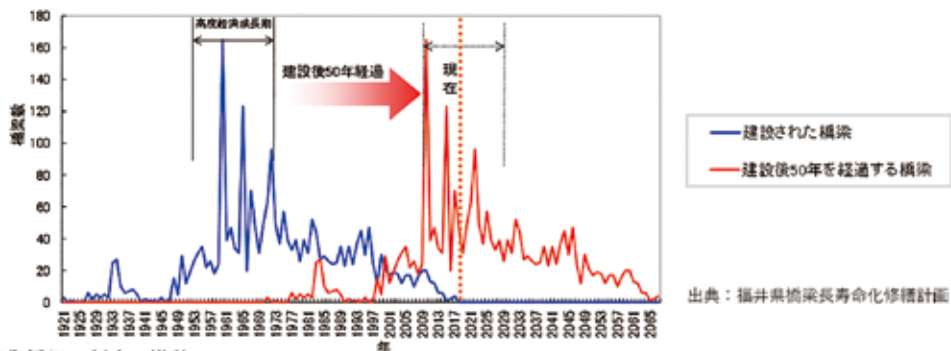
全国的に、高度経済成長期に集中的に整備された橋梁などインフラが老朽化してきており、こうしたインフラの修繕等を計画的に進めるなど、国を挙げて事前対策、国土強靱化を全力で推進することが必要です。

その意味からも、東海道新幹線の代替機能を発揮する北陸新幹線を1日も早く全線開業するとともに、敦賀港の高機能化を進め、「日本海国土軸」の形成と、東京圏や太平洋側に偏った国土構造の転換が必要不可欠です。

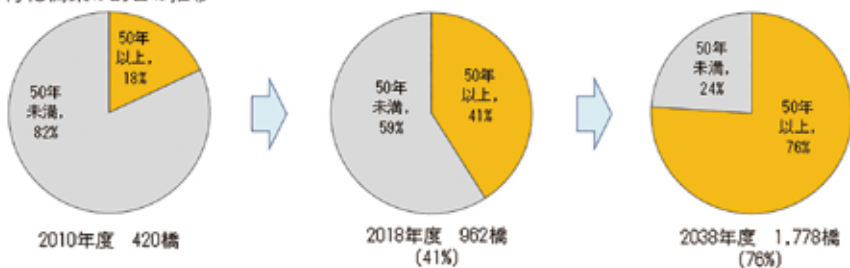
### インフラの老朽化

- 高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが老朽化
- 2040年頃には、約8割の橋梁が、建設後50年を超える

新設橋梁と老朽化橋梁数の推移



老朽化橋梁の割合の推移



**変化4 技術革新（—Society5.0— 未来技術の実用化拡大）**

インターネットやスマートフォンは、私たちのくらしや仕事に大きな変化をもたらしました。こうした「破壊的テクノロジー」とも呼ばれる技術革新は、今後さらに進展していくと考えられています。

特に、AI、ロボット、5G・6G、自動走行、量子コンピューティングなどは、研究や実用化が進みつつあり、今後20～30年の間に、農林水産業を含む産業、交通や移動、医療・介護、教育、エネルギー、防災、そして生活全般にわたり、さらなる大きな変化をもたらすと考えられます。

日本は、2016年に「Society（ソサエティ）5.0<sup>※</sup>」を打ち出し、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会の実現を目指しています。

※Society5.0：仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を指すもの

福井県においても、企業におけるAI・IoTの活用促進、自動運転技術の実用化、農林水産業への新技術導入（スマート農林水産業）等を進めています。

今後、こうした動きをさらに拡大し、くらしの利便性向上や産業活性化はもとより、人手不足など地域の課題解決に役立てることが必要です。AI等の未来技術を地域の産業やくらしに実装していくとともに、最新技術を理解し、開発・活用できる人材を育てていくことが重要です。



未来技術で実現する将来像（イメージ）

**製造**

材料の調達、工場での生産など地域のリソースのシェアリングをAIを活用して最適化し、製造額と供給額の精度の高い開始マッピングを行う。顧客が買った分だけ製造する。生産から販売まで一体化されたECコマースが発展する。

**自動運転**

近づくバス路線等の行き届かない地域では、ラストマイルを配達自動車両やパーソナルモビリティ等と公共交通機関との組み合わせを対話型アプリで選択できる。

**ドローン運送**

アプリで購入した商品が、送電線や河川等の上空をドローンの空の道とすることでゆるい「ドローンハイウェイ」等を活用したドローンで安全に配達され、ラストマイルは自律走行ロボット等で配達される。

**遠隔医療**

地域の病院で5G等を活用した医療従事者アプリで共有され患者のデータから処置計画を医療従事者間で事前に確認する。

**教育**

地域の小中高等学校では、遠隔地にいる教師や講師と教室の教師がリアルタイムで生徒と協働する異の異同時双方向の遠隔授業が地理的差異なくどの地域にも提供される。

**ロボットとの共生**

ショッピングモールでは案内ロボットが目的のお店まで訪客者を誘導する。駅前では、コミュニケーションロボットが独居高齢者のよい話し相手となる。

（内閣府「未来技術×地方創生検討会」資料より）

**変化5 価値観の進化（寛容性と多様性）**

近年、日本社会は不寛容になったとの声が聞かれます。よく目にするブログ記事等の“炎上”はその一例です。インターネット、とりわけSNS（ソーシャルネットワークサービス）の発達が一因と考えられています。

一方、「つくし世代<sup>※</sup>」と言われるような若者世代に見られる共感、共有（シェア）を大切にす意識、あるいは長時間労働を是とせずワークライフバランスを重視する動き、様々な障がい、国籍の違い、性差や性の多様性等を認めようとする気運など、時代とともに私たちの意識や価値観は変化しています。

※つくし世代：相手のことを思いやり、相手の幸せのために“尽くす”人が多く、共感力が高いと言われる若者世代。様々な定義があるが、一般的には1992年（平成4年）以降に小学校に入学し、2020年現在で34歳以下の若者

こうした私たちの意識や価値観は、これまで見てきた4つの大きな環境変化（人口減少、長寿命化、大交流化、技術革新）によって、今後さらに変容していくと考えられます。例えばAI・ロボット等の普及は、場所や国境、人種（言語）、バーチャルとリアル、さらには人間と機械との境界さえも希薄化していく可能性があります。

世界共通の目標「SDGs」は、多様性を強く希求します。

福井県も、豊かな自然や歴史に裏打ちされた風土と、そこで育った質実剛健な県民性など、「福井らしさ」を大切にしながら、様々な多様性を認め合う地域社会へと進化していくことが必要です。福井県がこれから迎える大交流時代は、その好機です。外に大きく開いて国内外の人々と交流することによって新しい文化を創造し、地域としての独自性を確立していくことが重要です。

2040年にかけての主なリスク要因と対応の方向性

ここまで見てきた国内外の潮流や環境変化の中には、高速交通網整備をはじめ本県にとって大きなチャンスとなる変化もある一方、リスク要因となるものもあります。それらを可能な限り見通し、先んじて対応していくことが重要です。

主なリスク要因と対応の方向性をまとめます。

| <世界のリスク>   | <対応>   |
|--|--|
| <p><b>○新興国の成長、経済のグローバル化の進展</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際政治の不安定化、通商問題、貧困・格差拡大、感染症の拡大</li> <li>・新興国の経済発展と日本の相対的地位低下の懸念</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓農産物や県産品の輸出拡大</li> <li>✓インバウンド誘客の拡大</li> <li>✓国際供給網の見直し</li> <li>✓地域産業の保護 など</li> </ul> |
| <p><b>○エネルギー需要の増加、地球温暖化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のエネルギー消費量の拡大</li> <li>・温室効果ガス排出増、気温上昇、生態系への影響</li> <li>・異常気象の頻発（豪雨、大型台風、干ばつ等）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓温室効果ガスの排出削減</li> <li>✓再エネ・新エネの導入拡大</li> <li>✓エネルギー需給の最適化</li> <li>✓国土強靱化 など</li> </ul> |
| <p><b>○食料・水資源の需要の増加と安全保障</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の食料需要の拡大</li> <li>・地球温暖化に伴う生産可能な作物の変化</li> <li>・食の安全性への懸念</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓食料の安定確保、地産地消</li> <li>✓農地・森林・水産資源の保全</li> <li>✓一次産業の多角化・スマート化、担い手育成 など</li> </ul>      |
| <国内・県内のリスク>  | <対応>   |
| <p><b>○人口減少・高齢化の進行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済規模の縮小、生産と消費縮小の悪循環</li> <li>・産業構造・労働環境の変化、格差の拡大</li> <li>・医療・介護需要の増加、社会保障費増大</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓国土政策の転換、人口減対策の強化</li> <li>✓域内資源循環システムの構築</li> <li>✓地域包括ケアの充実 など</li> </ul>             |
| <p><b>○集落コミュニティの衰退</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化集落の増加、担い手の不足</li> <li>・空き家の増加、耕地・山地の管理困難化</li> <li>・一人暮らし高齢者の増加</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓集落生活圏の形成、周辺集落との協働や未来技術活用</li> <li>✓新たな共助（有償ボランティア等）の促進 など</li> </ul>                   |
| <p><b>○自治体経営の困難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税収縮小と財政力の低下、公共工事の減少</li> <li>・職員数の縮減、公共サービスの低下</li> <li>・インフラの老朽化、維持コストの増大</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓行政業務の選択と集中</li> <li>✓新たな公共私のも体制構築</li> <li>✓インフラの長寿命化 など</li> </ul>                    |

## 2 福井県の特徴

将来像を描くにあたり、県民の皆さんからいただいた意見をもとに、福井県の良さや課題を明らかにします。

### 特徴1 自然や食の豊かさ

本県は、越前海岸や若狭湾から奥越の山々まで、海と山が近く、また田園の広がる平野や清流をたたえる河川・湖沼も有するなど、「越山若水」と称される豊かな自然・景観に恵まれた地域です。また、食材も豊富であり、本県発祥のコシヒカリはもとより、新たに開発した「いちほまれ」や、地理的表示保護制度（GI）登録もされた「越前がに」をはじめとする里・海・山の幸、美味しい水を活かした地酒やおろしそば、梅干、半夏生（はんげしょう）鯖、へしことといった独自の食文化など、枚挙にいとまがありません。県民からは、こうした自然や食の豊かさを評価する意見が数多く寄せられました。

一方、県民自身がこれらの良さを当たり前のもので考え、価値に十分気付いていない、また、控えめな県民性のためか発信力が弱いという意見もありました。また、地域の人口減少が進むと、農林水産業や農山漁村の景観、食文化を含む地域の伝統文化などが損なわれるおそれもあります。

今後、自然・景観から生活文化までを含む「暮らしのランドスケープ（風景）」とも言える福井らしい風土を保全・継承するとともに、広く発信して国内外から多くの人を呼び込み、県民の誇りや自信につなげていくことが必要です。





**特徴2 家族や地域のつながり**

本県は、全国に比べて三世代同居・近居率が高く、住民同士のコミュニケーションも活発です。地域内では、子どもや高齢者の見守り、集落活動や行事などに世代を超えて協力するなど、家族・地域のつながりやコミュニティ機能がしっかり残されていることを評価する意見が多くありました。

また、平成16年7月福井豪雨（2004年）など災害時はもとより、普段の生活の中においても、県民の助け合い・支え合いの精神が至るところで発揮されています。

一方、そうしたつながりの強さが、かえって地域内での生きづらさや地域外からの入りにくさの一因になっているとの意見もありました。また、本県も全国と同様、三世代同居率は徐々に低下し、核家族化や単身世帯化が進んでおり、集落の高齢化・過疎化を懸念する声も多く聞かれました。

今後、新技術を活かすとともに、有償ボランティアも含めて域外の人たちと積極的に交流してその活力を取り入れ、つながりの良さを継承しながら、住民が減っても持続可能な地域コミュニティを実現していくことが重要です。

**特徴3 充実した子育て・教育環境**

県民からは、子育てのしやすさや教育が充実していることを評価する声が多く聞かれました。子育ての面では、同居・近居する祖父母から育児への協力を得やすいこと、待機児童が少ないこと、多子世帯等への経済支援が充実していることなどが挙げられ、合計特殊出生率は全国上位を維持しています。教育面では、子どもたちの優れた学力・体力を支える教員の熱心さが評価されています。

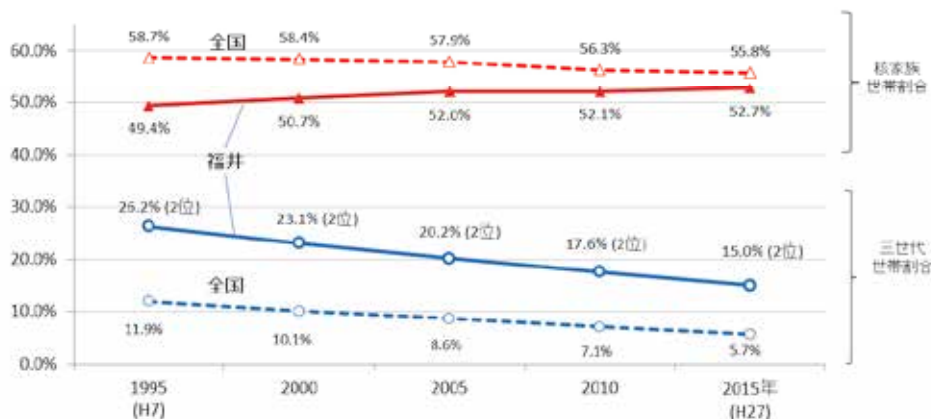
一方、共働きが多い中で育児に加え家事・介護等も一人で担いがちな女性の負担の重さや、結婚・出産・子育てを当たり前求められるなど多様な生き方・ライフスタイルが認められにくい風潮を指摘する声もありました。

多様な生き方や価値観を互いに認め合いながら、家族が支え合い、希望する出産・子育てが叶う社会をつくるとともに、子どもたちの学力だけでなく、スポーツ・文化など様々な個性を引き出す教育を進めていくことが必要です。

### 三世代世帯割合

- 本県の三世代世帯割合は、全国2位の水準にあるものの一貫して低下
- 一方、核家族世帯の割合は徐々に上昇

三世代世帯割合の推移、核家族世帯の割合の推移



出典：国勢調査

### 合計特殊出生率と出生数の推移

- 本県の合計特殊出生率は全国を上回る水準で推移し、2004年を底に上昇傾向
- 出生数は第2次ベビーブームの1973年以降、減少傾向

出生数、合計特殊出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計調査」

**特徴4 人材力の高さ**

福井県民は、県民性が穏やかであり、進学率や就業率の高さに象徴されるように勤勉・まじめで教育水準も高いことが特徴です。本県からはこれまで、政治・経済・学術・文化など様々な分野に優れた人材が生まれ、国内外で活躍してきました。

一方、県民はまじめな反面、安定志向が強い、あるいは優れた人材は県外に進学し、戻ってこないといった意見もありました。

これからの人口減少社会、そして変化の激しい時代にあって、ふるさとを担う人材はとても大切です。県民が変化に対応して柔軟に知識・技能を高め、様々なことに挑戦できる環境をつくるとともに、子どもたちのふるさと教育を進めていくことが重要です。

**特徴5 安定した産業・雇用基盤**

本県は、眼鏡や繊維に代表されるように製造業の盛んなものづくりの県です。オンリーワンの技術を持ち、世界一や日本一のシェアを誇る企業が数多くあります。また、丹南地域を中心に、1500年の伝統がある和紙や漆器をはじめとした伝統工芸が受け継がれており、ブランド化や産地観光など新たな動きも生まれています。お米をはじめ農林水産業も地域に根差しています。こうした産業の集積により、県民の就業率や正規就業割合が全国上位にあるなど雇用環境も良好です。産業や雇用の安定は、くらしの質の高さの確かな土台になっていると考えられます。

一方、若者が大都市圏に流出する中、若者や女性に魅力ある仕事が少ない、また都市部に比べて賃金など雇用条件が低いといった意見も県民から寄せられました。

今後、技術革新を活かして生産性を高めるとともに、新幹線開業を活かした観光・交流をはじめ、健康・医療、宇宙・航空、食、エネルギーなど様々な分野で価値を生み出す魅力ある産業・企業を増やし、持続可能な循環型の経済・産業基盤をつくっていく必要があります。

### 進学率と有業率の推移

- 高校生の大学等進学率は、全国平均を上回っている
- 有業率は男女ともに全国平均を上回り、特に女性は全国1、2位の水準にある



出典：学校基本調査



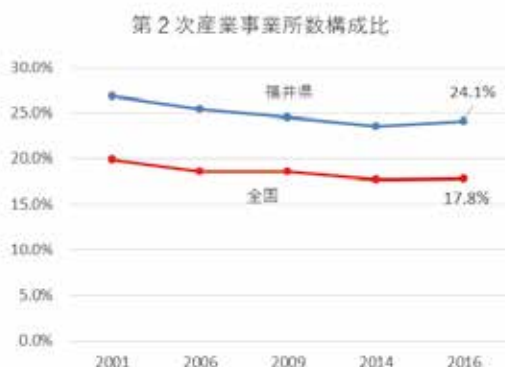
福井県の全国順位

|    | 1997 | 2002 | 2007 | 2012 | 2017 |
|----|------|------|------|------|------|
| 男性 | 18位  | 4位   | 12位  | 4位   | 5位   |
| 女性 | 1位   | 1位   | 1位   | 1位   | 2位   |

出典：産業構造基本調査報告（総務省）

### 第2次産業比率と完全失業率の推移

- 製造業等の第2次産業事業所の構成比は、全国2位の水準にある
- 完全失業率の低さも、全国トップクラスの水準にある



福井県の全国順位

|     | 2001 | 2006 | 2009 | 2014 | 2016 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 福井県 | 2位   | 2位   | 2位   | 2位   | 2位   |

出典：経済センサス等（総務省、経済産業省）



福井県の全国順位

|     | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 福井県 | 1位   | 1位   | 2位   | 3位   | 3位   |

出典：労働力調査（総務省統計局）

〔都道府県ランキングによる評価〕

福井県は、「全47都道府県幸福度ランキング」（一般財団法人日本総合研究所）において、2014年、16年、18年と3回連続で日本一の評価を得ています。過去3回いずれも2位の東京都を抑えての総合1位です。このランキングは、全70の客観指標からなる総合評価であり、福井県は半数近い33指標でベストテン入りするなど、総合力の高さが窺える結果となっています。

福井県が特に高く評価されている分野は、「仕事」、「教育」、「生活」の3分野です。ここまで概観してきた産業・雇用基盤や教育・子育て環境、家族や地域コミュニティのつながりなどが背景・要因となって、高い評価につながっていると考えられます。

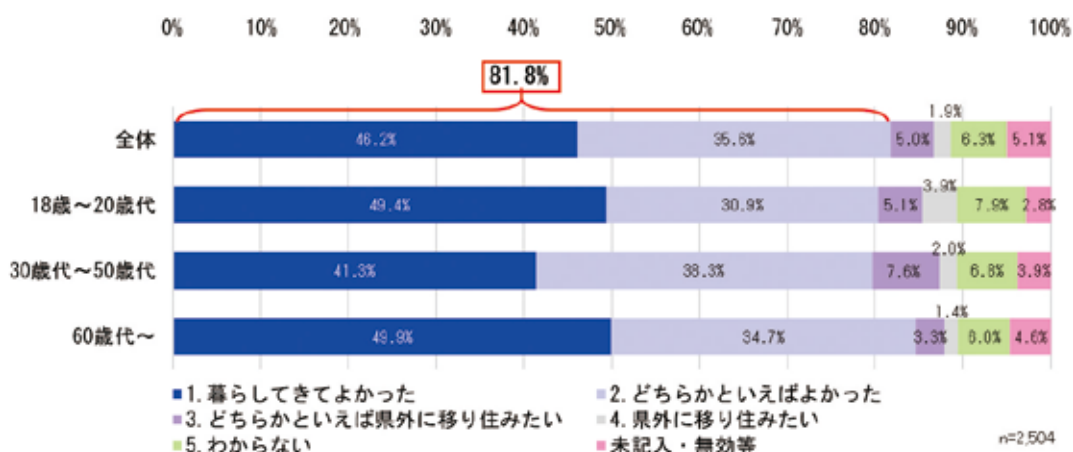
このほか、「日本でいちばん幸せな県民」（法政大学、2011年）、「子どもの幸福度」（慶應義塾大学、2014年）においても本県は全国1位となっています。

県民アンケートにおいても、全体の82%の方が現在の暮らしに概ね満足しており、主観の面でも幸福度の高さが裏付けられる結果となりました。

都道府県幸福度ランキング 順位推移

|    | 2012年版     | 2014年版     | 2016年版     | 2018年版     |
|----|------------|------------|------------|------------|
| 1位 | 長野県        | <b>福井県</b> | <b>福井県</b> | <b>福井県</b> |
| 2位 | 東京都        | 東京都        | 東京都        | 東京都        |
| 3位 | <b>福井県</b> | 長野県        | 富山県        | 長野県        |
| 4位 | 富山県        | 鳥取県        | 長野県        | 石川県        |
| 5位 | 滋賀県        | 富山県        | 石川県        | 富山県        |

福井県で暮らしてよかったと思う県民の割合（県民アンケート結果より）



### 3 2040年の福井県の将来像

ここまで見たように、わが国は、地球規模の環境変化に加え、アジア・アフリカ各国と対照的な人口急減社会という困難な時代を迎えています。戦後、「東洋の奇跡」と謳われた急速な経済発展を実現したわが国が、今一度、国民の英知を結集して、この困難を克服し、持続可能な未来を描くことができるか、世界各国が注目しています。

その中で福井県は、豊かな自然に恵まれ、悠久の歴史・文化が積み重なり、家族や地域社会のつながりが残され、子育て・教育や産業・雇用の充実した基盤、そして勤勉な人材力が受け継がれる、“日本のふるさと”とも言える地域です。こうした福井の良さを最大限に発揮して、喫緊の、そして将来に向けた大きな課題である人口減少をはじめとした地域の課題を乗り越え、次の時代に新しい価値を創造していくことは、他県の、ひいては世界のモデルとなります。

2040年という未来を見据えたとき、**世界が目指す「福井モデル」の確立**こそが、高いポテンシャル（潜在力）を有する福井県が果たすべき役割だと考えます。

福井県は、日本海側の中央に位置し、成長するアジアに面しています。福井の可能性を最大限に高める大きな基盤が、北陸新幹線や道路、港湾などの**高速交通・物流ネットワーク**です。わが国全体の持続的な成長のためにも、巨大地震等の災害リスクの高い太平洋側中心の国土構造を速やかに転換し、「日本海国土軸」の形成による「新次元の分散型国土」の創出が不可欠です。こうした交通・物流網の整備は本県における最重要プロジェクトであり、一日も早い完成を目指します。さらに、このインフラを基軸に、**まちづくりや観光地の磨き上げ等に重点投資**するとともに、**新たな産業を創造**し、国内外から多くの人を呼び込む力を一段と引き上げていくことが必要です。

今回のCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の拡大は、過度のグローバル化や都市への人口集中がもたらすリスクを顕在化させました。一方、テレワークやオンラインビジネスなど、「働く場所を選ばない」生活スタイルの可能性が大きく拡がり、微住やワーケーションなどの新たな滞在・交流の形を含め、自然に恵まれた地方の暮らしへの関心が高まっています。中でも、三大都市圏からほど良い距離に位置し、独自性を保ちながらも利便性が高く、「幸福度日本一」の良質な社会環境を誇る本県の良さを改めて認識する機会にもなりました。

福井の良さに磨きをかけて次世代に継承し、それらを土台にしながら、立地条件の飛躍的な向上を活かし、人々を強く惹きつける価値を創造する。誰もが安心して、豊かなくらしを楽しみ、そのイキイキとした県民の姿やまちの魅力が、たくさんの人を呼び込み、地域が賑わい、それがまた県民の誇りにつながる。そうした好循環が生まれる**「福井モデル」を県民の皆さんの力を結集して確立**していきたいと考えます。

こうした考えのもと、2040年に向けた県民の行動指針となる「基本理念」と福井県が「目指す姿」、「基本目標」および「将来イメージ」を描きます。

## (1) 基本理念

### 〔基本理念〕

# 「安心のふくい」を未来につなぎ、 もっと挑戦！ もっとおもしろく！

長い歴史の中で先人たちが培ってきた「安心と信頼」のふくいを、みんなで守り、次世代に引き継ぎます。

さらに、その安定した社会基盤をもとに、誰もが夢や希望をもって自分らしくチャレンジでき、相互に応援し合う、もっとワクワク・ドキドキする「おもしろい！」ふくいを目指します。

### 〔基本理念の考え方〕

#### ①故郷に自信と誇りを持つことからスタート

くらしの積み重ねの中で受け継いできた人々の営み、自然風土や歴史性、人の良さや温かさ、家族や地域社会のつながり、ものづくりや農林水産業等の安定した産業力など、すべてが「ふくいらしさ」であり、福井県の文化力です。

人口減少をはじめとする様々な課題に正面から向き合い、福井の「安心と信頼の社会基盤」を守りながら、一方で県民一人ひとりが外に大きく開き、国内外の人々との交流を通じてふるさとへの愛着や誇りを深め、自信をもって福井を語れる姿こそ、目指すべき県民像であり、地域の誇りの確立につながると考えます。

#### ②土台があるからチャレンジできる。

「安心と信頼」という土台があるからこそ、新たなチャレンジが可能です。この優位性を活かして、互いの多様性を認め、挑戦を応援し合う活力ある福井を目指すべきと考えます。

「人生100年時代」に、すべての世代がチャレンジでき、誰もが自分らしい生き方を実現できる寛容性の高い共生社会が、新しい福井の姿と考えます。



### ③福井をもっとおもしろく！

大交流化やアジアが牽引する世界経済の成長、そして技術革新を活かし、さらに可能性を拓げるためには、地域の魅力を掘り起こすとともに、人材育成、産業や文化・芸術、まちづくりなど、様々な分野において創造性をもって福井らしい価値をさらに高める必要があります。

時代の変化をチャンスと捉え、「福井をもっとおもしろく」を目標に、新たな価値観や多様な魅力・個性が加わった、ワクワク・ドキドキする未来を目指します。

### ④「次世代ファースト」を合言葉に

人口減少・高齢化、グローバル化や気候変動など様々な環境変化の中、福井の良さを次代に継承していくことは大きな挑戦です。

将来像の展望と実現にあたっては、持続可能な社会を目指すSDGsの理念に沿いながら、「すべては次世代のために」を合言葉に、将来世代の幸せを願い、「チームふくい」一丸となって行動していきたいと考えます。

## (2) 2040年に福井県が目指す姿

意見交換会等を通じて県民の皆さんからいただいた「福井県の望ましい姿」に関するご意見を集約すると、次のとおりです。

### ○福井の良さが活かされ、文化力がさらに向上した地域

- ・文化は豊かな社会づくりの基盤。多様な文化を掘り起こして発信するなど、文化の力を未来づくりに生かすことが重要
- ・県外の文明と持ち前の温かさをあわせ、「温故知新」を体現する日本のモデルとなるべき
- ・福井ならではの良さを活かしながらも、経済、社会、環境が持続可能な地域を目指すべき
- ・県外の人や外国人が福井の食や温泉に魅力を感じて、人が集まり訪れる社会を目指すべき

### ○多様性が尊重され、挑戦が後押しされる地域

- ・様々な生き方を試みてよい、いろいろな人がいてよいという意識が醸成された社会を目指すべき
- ・多様な質の幸せに寄り添える県になってほしい。特に「女性の幸せ」は新しい時代を切り拓く旗印・道筋となる
- ・自分が何をしたいのか、何ができるのか考える人を増やし、チャレンジしていく社会を構築すべき
- ・人口減少は止められない現実。一人ひとりが活躍し、つながり合える社会を目指すべき

### ○創造的で魅力ある産業が生まれる地域

- ・若者が戻ってくる魅力的な企業づくり、技術革新と福井の人間性の良さを掛け合わせた新たな産業育成が重要
- ・新しいものや価値を生み出す創造力やデザイン力を高めていくべき
- ・AIやITなどのベンチャー企業やユニコーン<sup>※</sup>が生まれやすい環境を作るべき
- ・掘り起こせば光る企業や産地に磨きをかけて成長させ、世界のモノづくりの聖地となるべき

※ユニコーン：評価額が10億ドル以上で、未上場のベンチャー企業のこと

## 〔2040年に福井県が目指す姿〕



SDGs（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の理念に沿いながら、3つの姿を目指します。

### 自信と誇りの ふくい

「ふくいらしさ」を大切に。  
県民が誇りをもって暮らす  
ことにより、さらに多くの  
人を呼び込む“ふくい”

「ふくいらしさ」を伸ばし、  
外に開いて人を呼び込む。

### 誰もが主役の ふくい

すべての人が輝き、  
互いに支え合い、幸せを実感  
しながら、将来にわたり  
安心して暮らせる“ふくい”

多様な個性を大事にし、  
みんなが自分らしく輝く。

### 飛躍する ふくい

交通体系の進展や  
技術革新を活かして、  
産業の新たな可能性を拓く。  
創造的で活力ある“ふくい”

変化をチャンスに、  
しごととくらしを創造。

#### 〔「目指す姿」の考え方〕

先を見通しがたい、困難な時代に、SDGsの理念に沿った持続可能な社会を実現するためには、今ある良さを次世代に継承することはもとより、新たな価値を創造し、絶えず成長する経済社会であることが必要です。

福井県は、長い時間をかけて県民皆で培ってきた「安心と信頼の社会基盤」を有し、今また、東西南北へと大きく広がる高速交通インフラの整備を進めています。これらを最大限に活かし、“くらしの安心”と“社会の活力”、そして“県民の誇り”が相乗的に高まり、好循環を創出する「福井モデル」を確立していきます。

〔2040年に福井県が目指す姿①〕

## 自信と誇りのふくい

「ふくいらしさ」を大切に。  
県民が誇りをもって暮らすことにより、  
さらに多くの人を呼び込む“ふくい”

**「ふくいらしさ」を伸ばし、外に開いて人を呼び込む。**

### 〔方向性〕

くらしの積み重ねの中で受け継いできた人々の営み、支え合いなどの精神性、自然風土や歴史性、地域社会のつながり、農林水産業をはじめとする産業力など、すべてが「ふくいらしさ」であり「文化力」。こうした資産を守り、価値を高め、「選ばれるふくい」を築きます。

#### “内と外”の力で「ふくいらしさ」を次世代に

ふるさと教育と域外との交流により、“内と外”の両面から「ふくいらしさ」を県民自ら再発見し、国境を越えた文明化が進む中、福井の文化力を次世代に継承します。

#### 「暮らしのランドスケープ」の継承・活用

工芸、祭り、年中行事などの生活文化や食文化、まちなみ、農山漁村・農林水産業、里山里海湖などの景観・環境を、磨きながら20年先へとつなぎ、新たな観光・交流資源を創出します。

#### 「新時代の文化力」を伸ばし、人を呼び込む

人口減少の中、県民の主体的な行動と未来技術、関係人口の知見を融合し、福井を形づくる「新時代の文化力」を伸ばします。そして外に開いて魅力を高め、発信し、移住・定住につながる好循環を創出します。

〔2040年に福井県が目指す姿②〕

## 誰もが主役のふくい

すべての人が輝き、互いに支え合い、  
幸せを実感しながら、  
将来にわたり安心して暮らせる“ふくい”

**多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く。**

### 〔方向性〕

人口減少により一人ひとりに期待される役割が広がる中、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、多様性を認め合い、人生100年時代に誰もが様々なことに挑戦できる「全員参加型」の共生社会を築きます。

#### ふくい発「健康文化」を創出

生涯生きがいを持って社会を支える新たな高齢者観を提唱し、人生100年時代を生きる力を自ら培う「健康文化」を創出します。また、介護が必要となっても、障がいがあっても、県民が支え合い、誰もが安心して暮らせる社会を築きます。

#### 「生涯学び」のふくいを推進

技術革新、価値観の変化に対応し、常に新たな知見を学び、自己の知識や技能（セルフブランド）を磨き続ける「生涯学び」の福井を推進します。

#### 「多役多業」の活躍人材輩出

複数の仕事や地域貢献活動に積極的に取り組む複線型の人生設計を描き「多役多業」で活躍する人材を輩出します。

#### 全員参加型の共生社会を形成

外国人をはじめ多様な人材と交流・協働し、異なる価値観や互いのチャレンジを認め合う寛容性の高い「共生社会」をつくります。

〔2040年に福井県が目指す姿③〕

## 飛躍するふくい

交通体系の進展や技術革新を活かして、  
産業の新たな可能性を拓く。  
創造的で活力ある“ふくい”

**変化をチャンスに、しごととくらしを創造。**

### 〔方向性〕

交流拡大や新技術により、経済・社会の仕組みが大きく変わる可能性。  
こうしたチャンスを最大限に活かし、新時代の産業基盤を確固たるものにする  
とともに、くらしの質を高め、活力に満ちた地域をつくります。

#### 「日本海国土軸」の形成

高速交通網早期完成により「日本海国土軸」を形成し、大交流時代において福井  
の優れた文化や生活スタイルを世界へ発信、交流します。

#### 「エンタメふくい」の創造

観光・まちづくり・本物体験など観光・交流資源を磨き上げて「エンタメふくい」  
を創造します。さらにくらし体験と心の交流を重視した“ポスト観光”の「交流産  
業化」を推進します。

#### 価値づくり産業への進化

ものづくり、サービス、農林水産業などあらゆる産業において、温暖化、食料、  
エネルギーなど国際社会の課題や成長市場を先取りし、新たな価値を創り出す企業  
が次々に生まれ成長する、新時代の産業集積地を形成します。

#### 「未来技術の人材育成」先進県の実現

AI・ロボット等の未来技術を開発する技術者やそれらの技術を創造的に活用で  
きる人材を育成・輩出し、ベンチャー企業が集積する「未来技術の人材育成」先進  
地を形成します。

〔基本理念と2040年の目指す姿〕



(3) 基本目標

〔基本目標〕

**しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい**

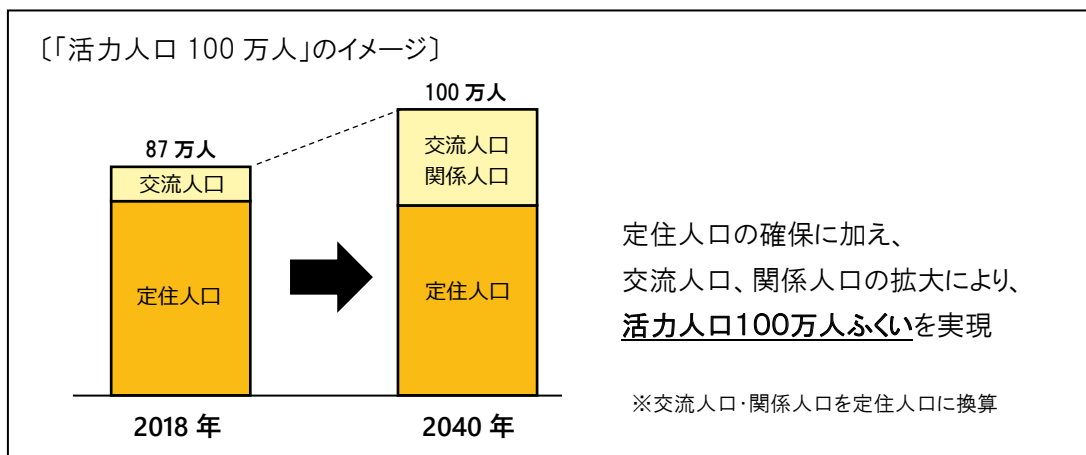
高速交通・物流網の早期完成により、日本海国土軸の中心に位置する本県が「国土の新拠点」に。千年を超える歴史と文化に一段と磨きをかけ、国内外から多くの人往来。日本一の人材力・技術力を活かした新たな産業が集積し、「幸福度日本一」の質の高い暮らしを実現する、新時代の活力と楽しさあふれるふくいを築きます。

※活力人口100万人：定住人口の確保に加え、交流人口・関係人口を拡大し、内と外が活発に交わることにより福井の活力を一段と向上

〔基本目標の考え方〕

様々な調査において、「幸福度日本一」と評価される総合力の高さは、他県に真似のできない本県最大の強みです。今後、北陸新幹線をはじめとする高速交通・物流ネットワークの飛躍的な向上により、本県の持つポテンシャル（潜在力）が最大化され、誰もが安心して豊かな生活を楽しみ、その魅力がさらに多くの人を惹きつける全国モデルの「暮らしの先進地」になり得ると考えます。

住む人のしあわせを第一に、定住人口の確保を図るとともに、交流人口・関係人口を大きく拡大することにより、活力と楽しみにあふれる「活力人口100万人ふくい」を実現します。





## 〔人口の見通し〕

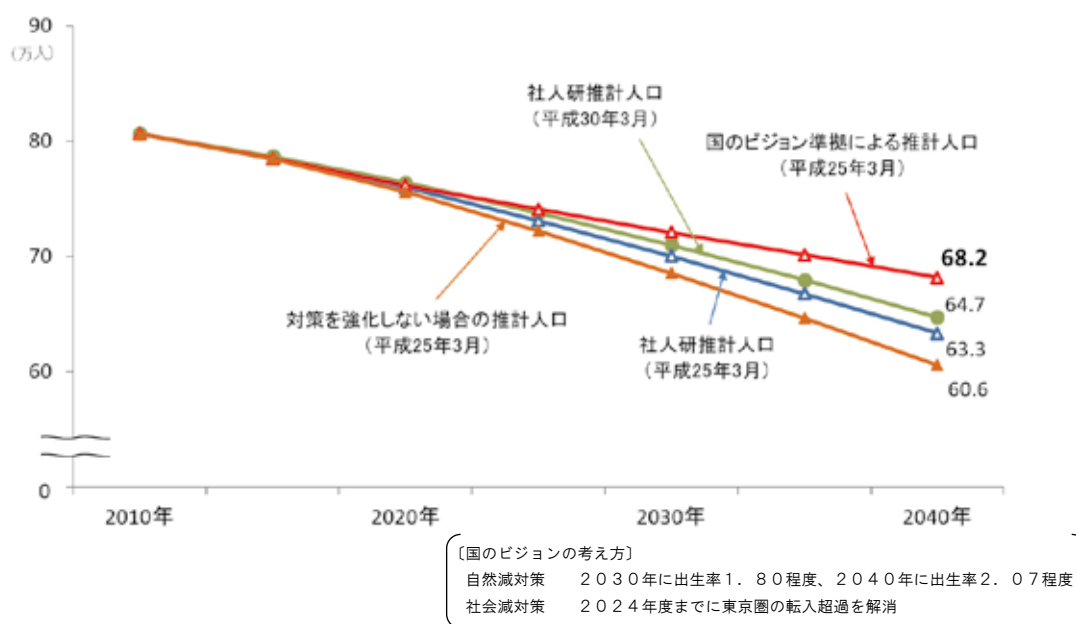
(定住人口)

国立社会保障・人口減少問題研究所の推計(平成25年3月推計)によると、2040年の本県人口は63.3万人まで減少する見込みでしたが、同研究所の最新推計(平成30年3月推計)によると64.7万人となり、5年前の推計に比べ、1.4万人改善しました。

人口問題の解決には長い期間を要することを念頭に、第2期「ふくい創生・人口減少対策戦略」(計画期間2020年度～2024年度)を策定し、引き続き人口減少対策を強化・継続します。あわせて、人口減少・超高齢化社会においても、幸せなくらしを維持するための適応戦略を進めていきます。

第2期戦略においても、前戦略の人口見通しの考え方を維持し、**中長期的に「社会増」、「出生率2.07」を目指します。**達成した場合には、2040年の推計人口は68万人と見込まれます。

福井県の総人口の将来見通し



(交流人口・関係人口)

県外からビジネスや観光で本県を訪れる交流人口を定住人口に換算した場合、現在は約10万人相当となります。今後、新幹線など高速交通ネットワークの整備効果や観光資源の磨き上げなどにより、交流人口の拡大を図るとともに、福井との多様な関わり方をもつ関係人口を拡大することにより、20年後には30万人相当以上の活力を生み出すことができると考えます。

100年に一度のチャンスを活かし、外に開いて国内外から多くの人を呼び込み、県民との新たな交流を拓けることにより、「しあわせ先進地」ふくいの活力を大きく高めていきます。

(4) 将来イメージ 「2040年のふくい」

2040年に福井県がどのような社会になっているか、県民共通の将来イメージを持つことが、実現に向けての推進力を高めることになると考えます。

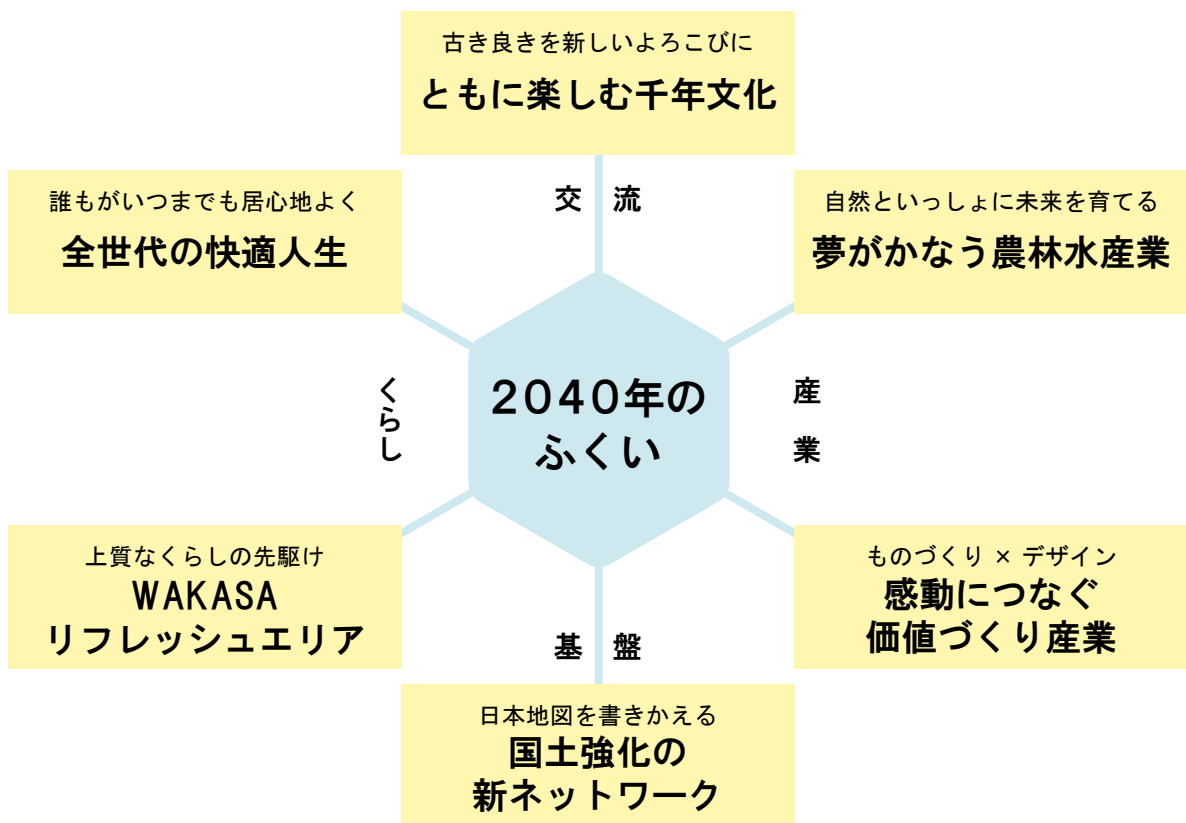
ここでは、福井県の強みを伸ばすことにより実現する「ふくいの未来」を構想し、県民の皆さんと共有します。

2040年には、北陸新幹線や道路、港湾などの高速交通・物流ネットワークが完成し、新時代の本県の交流、くらし、産業を支える基盤となっています。

この基盤を最大限に活かすとともに、千年を超える歴史・文化に磨きをかけることにより、国内外との交流が大きく広がります。また、福井が誇るものづくり技術にデザイン力が結び付き、新たな価値を創り出す先進企業が次々に生まれ成長します。そして、豊かな自然環境の中、あらゆる世代が安心して生活し活躍できる「ふくいならではの質の高いくらし」が実現しているものと考えます。

こうした「2040年のふくい」について、「基盤」、「交流」、「くらし」、「産業」の各分野における具体的な将来イメージを6つ示します。

〔ふくいの将来イメージ〕



## 〔基盤〕

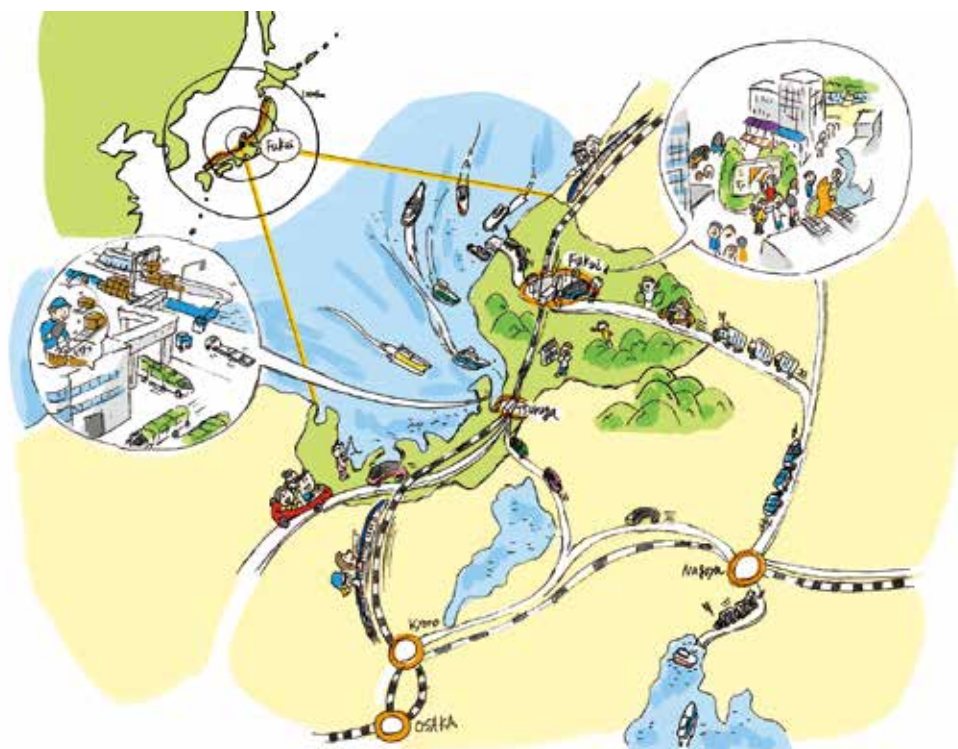
〔2040年のふくい①〕

## 日本地図を書きかえる 国土強化の新ネットワーク

「世界最先端のスマート港湾」敦賀港をはじめ、北陸新幹線や中部縦貫自動車道の完成により、日本海側の重要拠点として、アジアや三大都市圏との人流・物流が飛躍的に拡大

## 〔将来イメージ〕

- 敦賀港が世界最高水準のスマート港湾に進化し、関西・中京からアジアへの物流を最速化。環日本海諸国への外貿航路や国内各地への内貿航路が拡大し、日本の一大物流拠点となっている。
- 北陸新幹線福井・敦賀開業により坂井エリアが関東・東北・信越からの交流拠点となり、多くの観光客があわら温泉に泊まりながら、東尋坊や丸岡城、一乗谷朝倉氏遺跡など県内各地の観光スポットに足を延ばして賑わっている。
- 中部縦貫自動車道の全線開通により、中京と福井を結ぶ物流軸が完成し、奥越の産業団地が中京への供給拠点となっている。また、冠山峠道路とあわせ、奥越・丹南が名古屋から高山・白川郷等を結ぶ「昇龍道」広域観光の拠点となり、本物の自然体験や伝統工芸体験を多くの人を楽しんでいる。
- 北陸新幹線全線開業により嶺南が関西至近の生活圏となり、関西からの移住者が増え、豊かな自然環境の中で、スポーツや食を楽しむ健康的な生活を送っている。



〔交流〕

〔2040年のふくい②〕

## 古き良きを新しいよろこびに ともに楽しむ千年文化

1500年の歴史を誇る伝統工芸をはじめ悠久の歴史に育まれたくらしや文化、自然風土など、福井の「千年文化」が継承され、オンリーワンの魅力に、国内外から多くの人々が惹きつけられ往来する一大交流地

〔将来イメージ〕

- 1500年の歴史を持つ伝統工芸や職人の技、地元の人々が大切に守ってきた祭りなどの価値が大きく高まり、日本を代表する文化として国際的にも評価され、多くの観光客で賑わっている。
- 世界ナンバーワンの恐竜や年縞の研究拠点に、国内外から研究者が集まり、さらに研究成果が充実。その成果を学ぶ子どもたちが大勢訪れ、福井ファンが全国に拡大している。
- 三方五湖や東尋坊など国内屈指の景観を楽しみながら、福井のプレミアム食材を用いた料理を味わえる高品質な宿泊施設に世界中からインバウンド客が訪れ、長期滞在している。
- 「福井がおもしろい」を合言葉に集まった若者が企画するアートや音楽イベントに多くの県民や観光客も参加し、一体となって盛り上がり交流を深めている。



〔くらし〕

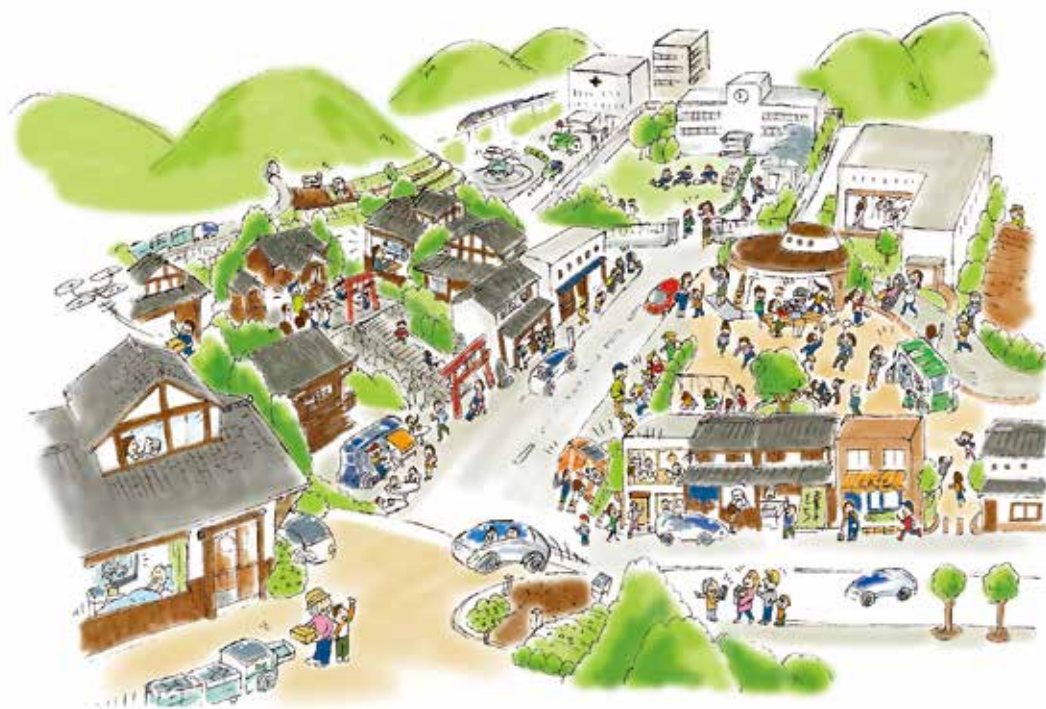
〔2040年のふくい③〕

## 誰もがいつまでも居心地よく 全世代の快適人生

福井に残る家族・地域のつながりや、支え合いの精神を大切にしながら、子どもからお年寄りまですべての世代が安心して暮らし、生涯活躍できる全国モデルのしあわせ地域

〔将来イメージ〕

- **日本一子育てしやすい県**として評価され、全国から子育て世代が移住。豊かな自然環境や充実した教育環境のもと、家族が助け合い仲良く暮らしている。
- 学力・体カトップクラスから、**個性を引き出し学びを楽しむ教育へと進化**し、子どもたちが夢と希望を持ち伸び伸びと育っている。
- 仕事や地域活動などあらゆる分野でシニアが活躍。**健康長寿日本一のシニア**が、年齢に関係なく社会の支え手として人生100年時代を元気に過ごしている。
- 自動運転車で安全便利に移動ができ、宅配・見守りサービスも充実。ICT活用の医療・福祉も完備され、**介護が必要となっても高齢者が住み慣れた地域で温かく見守られ安心して暮らしている。**
- **外国人や障がい者などが、分け隔てなく地域や職場で活躍。**様々な考えを認め合う寛容な地域として全国から認められ、多様なつながりが生まれている。
- 自助・共助の精神が根付き、様々な人が地域防災の担い手として活動。**治安が良く、住民同士が支え合いながら安全安心なくらしを実現している。**



〔くらし〕

〔2040年のふくい④〕

## 上質なくらしの先駆け WAKASA リフレッシュエリア

豊かな歴史と自然環境、洗練された美しい町並みに惹かれ、国内外から多くの人に移り住み、未来技術を活用した新しい働き方と質の高い生活を両立する「くらしの先進地」を全県に

〔将来イメージ〕

- 生活圏となった関西からの移住者が増え、関西に通勤・通学しながら嶺南に暮らし、サイクリングやマリンスポーツ、寺社仏閣巡りなど健康的で文化的な生活を満喫している。
- 美しい自然や悠久の歴史を体感しながら、古民家オフィスでテレワークするなど、地方暮らしのモデルとして憧れる新しい働き方が実現している。
- 嶺北に住む人も嶺南の古民家シェアハウス等に滞在し、豊かな自然や食を日常的に楽しむなど、県民同士の新たな結び付きが生まれている。
- CO2フリーエネルギーの先進県として、エネルギー循環型ハウスや自動運転車、遠隔医療など最新技術が集積するスマートタウンが県内各地につくられ、多くの若者や移住者が快適に暮らしている。



## 〔産業〕

〔2040年のふくい⑤〕

## 自然といっしょに未来を育てる 夢がかなう農林水産業

福井の生活や文化、農山漁村の風景を形づくってきた農林水産業が、最新技術の活用やプレミアムブランドの創出により「稼ぐ力」を一段と高め、若者が憧れる新たな成長産業に飛躍

## 〔将来イメージ〕

- プレミアムブランド化された農産物や畜産物、地魚などが、首都圏や海外へ高値で取引され、**農林水産業の産出額が大幅に増加**している。
- 里山里海湖の豊かな環境に農家レストラン、漁家民宿、体験施設などが集まる「食と農の里」が各地に生まれ、**地域内外の人が交流するにぎわいのある農山漁村**となっている。
- 県立大学を中心に新たな農林水産業ビジネスが生まれ、さらに園芸・林業・水産カレッジで実践力を身に着けた若者がその担い手となって活躍。**儲かる産業に進化し、就労者が増えている。**
- 農業機械の自動運転や大規模園芸化、IoTを使った魚の増養殖など高効率化が進展。**新3K（カッコいい・稼げる・感動）産業に憧れる若者が集まり、女性や高齢者もいきいきと活躍**している。



〔産業〕

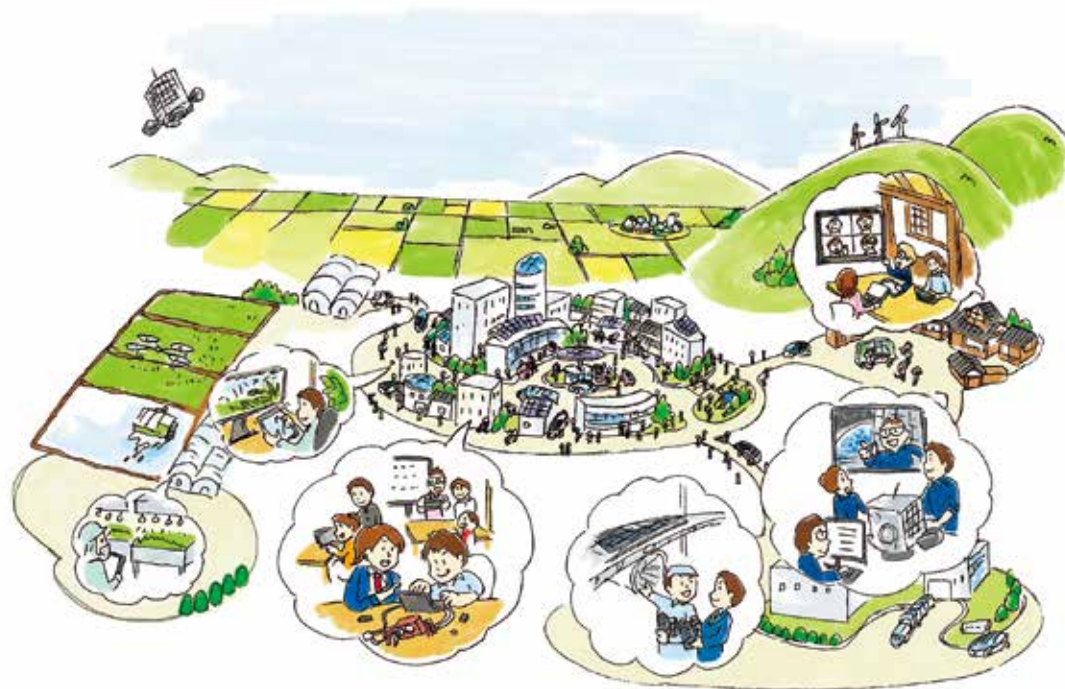
〔2040年のふくい⑥〕

## ものづくり×デザイン 感動につなぐ価値づくり産業

福井の産業集積とそれを支える高い人材力に、技術革新とデザインが結び付き、新たな価値を創り出す先端企業が次々に生まれ成長する「地域循環型」の新産業集積地

〔将来イメージ〕

- 成功した経営者が起業家を育成し、その起業家がさらに次の起業家を育成する人材の循環が拡大し、新たな成長企業が続々と生まれている。
- 航空・宇宙産業の拠点として関連企業が集積し、さらにAI、ロボット、次世代エネルギーなどの最先端の技術を持つ企業が立地。地元はもとより全国の優秀な人材の受け皿となり、世界を牽引する新産業成長エリアになっている。
- ものづくりの確かな技術を基に、デザイナーやクリエイターが協働して新たな価値を付加。ブランド化された高品質な製品・サービスが相乗的に生み出され、心を動かす「FUKUIデザイン」の評価が確立している。
- IT企業の現役技術者やOBが教えることも向けのプログラミング教室が各地で日常的に開催され、次世代の技術者が次々に輩出されている。





## (5) 2040年に向けた長期プロジェクト

福井県は、日本海国土軸の中心に位置し、関西・中京との結節点であるという地理的優位性を有しています。また、伝統工芸など千年を超える歴史と文化、地域の絆の強さや助け合いの精神、日本一の人材力と技術力を有しており、これらは福井県が誇る大きな強みといえます。

2040年に向けて、このような福井県の強みを最大化し、基本目標である「しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい」と6つの将来イメージを実現するため、20年間の長期プロジェクトとして、「県境フロンティア」、「千年文化の継承発展」、「くらしの新デザイン」、「価値づくり産業創造」の4つのプロジェクトを推進します。

### 【長期プロジェクト】

#### 福井県の強み

- ① **日本海国土軸の中心地**  
「日本海国土軸」の中心に位置し、関西・中京との結節点にある地理的優位
- ② **千年を超える歴史と文化**  
1500年の歴史を誇る伝統工芸をはじめ、悠久の歴史と文化の圧倒的な厚み
- ③ **地域のつながりと支え合い**  
集落等の共同生活の中で育まれた地域の絆の強さや助け合いの精神
- ④ **日本一の人材力と技術力**  
教育水準が高く、勤勉でまじめな県民性と優れた技術を持つ産業集積



#### 「幸福度日本一」の地域力

様々な調査において「幸福度日本一」の評価を受ける総合力の高さ

ふくいの強みを最大化する4つの長期プロジェクト

#### 1 県境フロンティアプロジェクト

東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、新時代の交流・くらし・産業の基盤をつくる

#### 2 千年文化の継承発展プロジェクト

千年を超える歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、「交流」と「楽しさ」を大きく広げる

#### 3 くらしの新デザインプロジェクト

地域の絆と支え合いの精神を大切に、新たなつながりと最新技術を活かし、「日本一質の高いくらし」を実現する

#### 4 価値づくり産業創造プロジェクト

地域産業の厚みと優れた人材力を基に、技術革新とデザインを結び付け、新たな価値を生み出す産業をつくる

4つの長期プロジェクトにより実現する2040年のふくい

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

## 2040年に向けた長期プロジェクト

## 1 県境フロンティアプロジェクト

東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、  
新時代の交流・暮らし・産業の基盤をつくる

## ○アジアへ最速「敦賀港」

- ・敦賀港を先端技術の導入による世界最高水準の高効率・高利便性を誇る「世界最先端スマート港湾」へ進化
- ・環日本海諸国との外貿や国内各地への内貿航路の充実・拡大
- ・南海トラフ等の大災害時には日本の拠点港湾として機能発揮

## ○新幹線で東京・大阪に直結

- ・福井・敦賀開業および新大阪までの「早期全線開業」の実現
- ・新幹線5駅を中心としたまちづくりとMa a Sなど2次交通の整備

## ○中京・関西につながる大動脈

- ・中部縦貫自動車道の「早期県内開通」
- ・舞鶴若狭自動車道の「早期4車線化」
- ・高規格道路へのアクセス道路や産業団地、道の駅等の整備

## ○誰もが等しく超高速通信

- ・福井県情報スーパーハイウェイ(FISH)やケーブルテレビ等の光ファイバー網の整備などにより、誰もが超高速通信ネットワークを利用できる「超スマート社会」を実現

## ＜県境フロンティア＞

県境エリアを、新たな交流やビジネスが生まれるフロンティア（新天地）に転換。  
相乗的に中心エリアも発展し、県勢が飛躍的に拡大

| 「北の玄関口」                             | 「東の玄関口」                                    | 「南の玄関口」                         | 「西の玄関口」                      |
|-------------------------------------|--|---------------------------------|------------------------------|
| 新幹線福井・敦賀開業により坂井エリアが関東・東北・信越からの交流ハブに | 中部縦貫道・冠山峠道路開通により奥越・丹南エリアが中京から日本海への人流・物流拠点へ | 敦賀港の最先端スマート港化で関西・中京からの物流を最速で世界へ | 新幹線全線開業により嶺南が関西至近のリフレッシュエリアへ |

2040年に向けた長期プロジェクト

## 2 千年文化の継承発展プロジェクト

千年を超える歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、「交流」と「楽しさ」を大きく拡げる

### ○オンリーワンを伸ばす

- ・「世界一の恐竜研究」を追求・推進し、その成果をもとに、県内に多彩な恐竜体感の場を創出
- ・福井城址や北の庄城址などを活かした「歴史のシンボル」を県都に設置
- ・東尋坊や三方五湖など唯一無二の自然環境を核にインバウンドに人気の新たな「リゾートエリア」を形成
- ・年縞博物館を世界的な「年縞研究拠点」へ進化
- ・敦賀を拠点に、欧亜国際列車や「命のビザ」など世界を体感する「人道の港」を整備

### ○「千年文化」の磨き上げ

- ・継体天皇ゆかりの越前漆器や川上御前の伝説が残る越前和紙など1500年前から現代まで続く伝統工芸をはじめ、お水送りなどの伝統行事や、氣比神宮、羽賀寺等の寺社仏閣など、悠久の歴史を誇る「千年文化」を活かした交流促進
- ・歴史文化施設の充実や、福井ゆかりの先人を主人公とする大河ドラマ誘致により、古代から中世・戦国・幕末近世まで、あらゆる時代を学び楽しむ「歴史体感エリア」のスケールアップ
- ・宿場町など歴史的まちなみや伝統産地に、「福井がおもしろい」を合言葉に若者・よそ者が集まる「チャレンジNo.1ふくい」



県立恐竜博物館



越前和紙

2040年に向けた長期プロジェクト

### 3 くらしの新デザインプロジェクト

地域の絆と支え合いの精神を大切に、新たなつながりと最新技術を活かし、「日本一質の高いくらし」を実現する

#### ○スマートエリアの形成

- ・太陽光発電・蓄電池等を搭載したスマートハウスや自動運転車、遠隔医療など、最新技術が集積する「未来型スマートエリア」を各地に形成
- ・2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ「ゼロカーボン」を目指し、風力や水素などCO<sub>2</sub>フリーエネルギー導入を推進
- ・豊かな歴史文化と自然環境の中、文化的・健康的に暮らす「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

#### ○くらし安心「住みやすさ改革」

- ・「日本一の出会い・子育て」応援から「次世代包括ケアシステム」まで。つながりを活かし生涯安心して暮らせる全国モデルのしあわせ地域づくり
- ・有償ボランティアや、ICT等の活用により、高齢者の移動手段等を確保する「つながる次世代コミュニティ」創出
- ・日本一安全・安心な「防災・治安先進県」ふくいの推進
- ・「SDGs」の理念に基づき、持続可能な安心社会を形成



水素ステーション



古民家を改装した宿泊施設

## 4 価値づくり産業創造プロジェクト

地域産業の厚みと優れた人材力を基に、技術革新とデザインを結び付け、新たな価値を生み出す産業をつくる

### ○農林水産業を成長産業へ

- ・食の「プレミアムブランド化」により、国内外へ販路を拡大
- ・農林水産業のスマート化や観光農園、増養殖や県産材利用の拡大等により、新時代の「稼げる農林水産業」を実現
- ・県立大学新学科や園芸カレッジ等の人材育成システムと結び付け、「食と農のプラットフォーム」（総合基盤）を形成

### ○ものづくりから価値づくりへ

- ・成功した経営者が次世代に投資し、将来を担う起業家を育成。新たな価値を創造する「福井型エコシステム」の確立
- ・後継者の全国公募や後継ぎベンチャー支援など、福井らしさを活かした「事業創継」の推進
- ・「デザインの力」を最大活用し、地域産業をブランド化

### ○先進技術ふくいの拠点形成

- ・最新技術を有する企業の誘致、地域産業への技術革新導入により、「先端技術企業の大集積地」へ
- ・超小型人工衛星の製造や航空機素材の開発など、「航空・宇宙産業の拠点化」を推進
- ・次世代電池や水素など「未来エネルギー技術」活用推進

### ○未来のA I 技術者育成

- ・「A I 人材育成システム」により、未来技術を開発・活用できる次世代人材を数多く育成・輩出
- ・最新技術を学ぶ「A I カレッジ」の開講等により、県内企業で活躍する高度専門人材を育成



ふくい園芸カレッジ研修

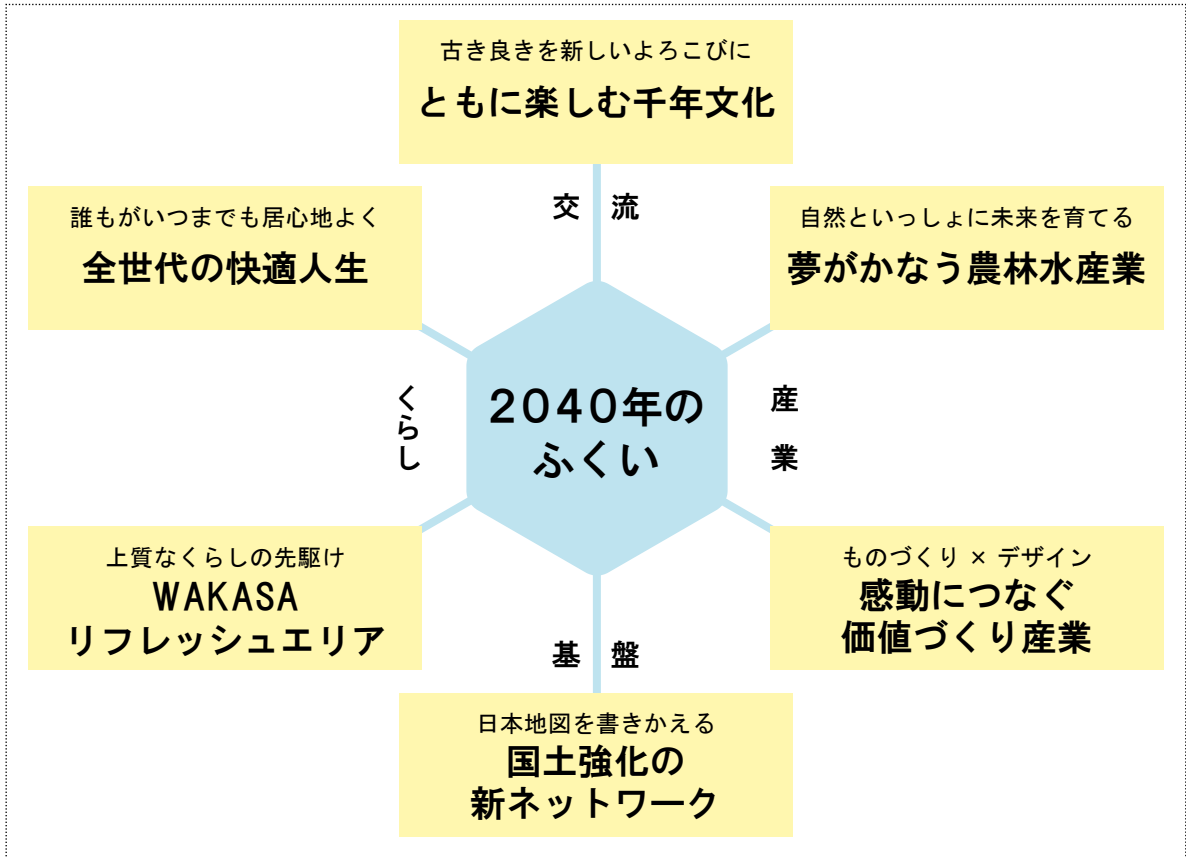


企業の試作品開発等に使える「デザインラボ」

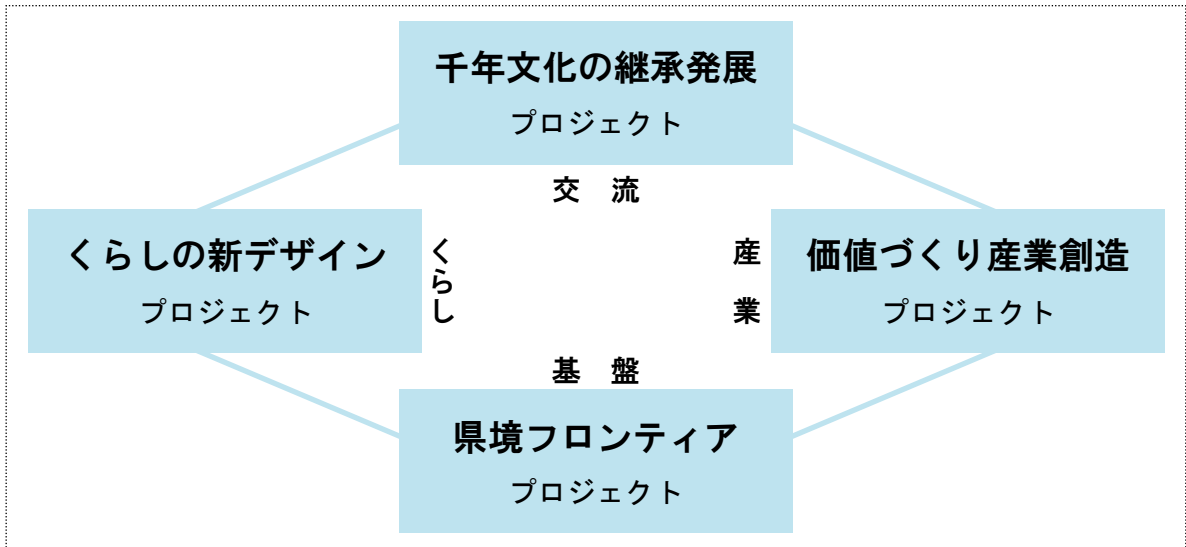
〔基本目標〕

**しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい**

〔ふくいの将来イメージ〕



〔2040年に向けた長期プロジェクト〕



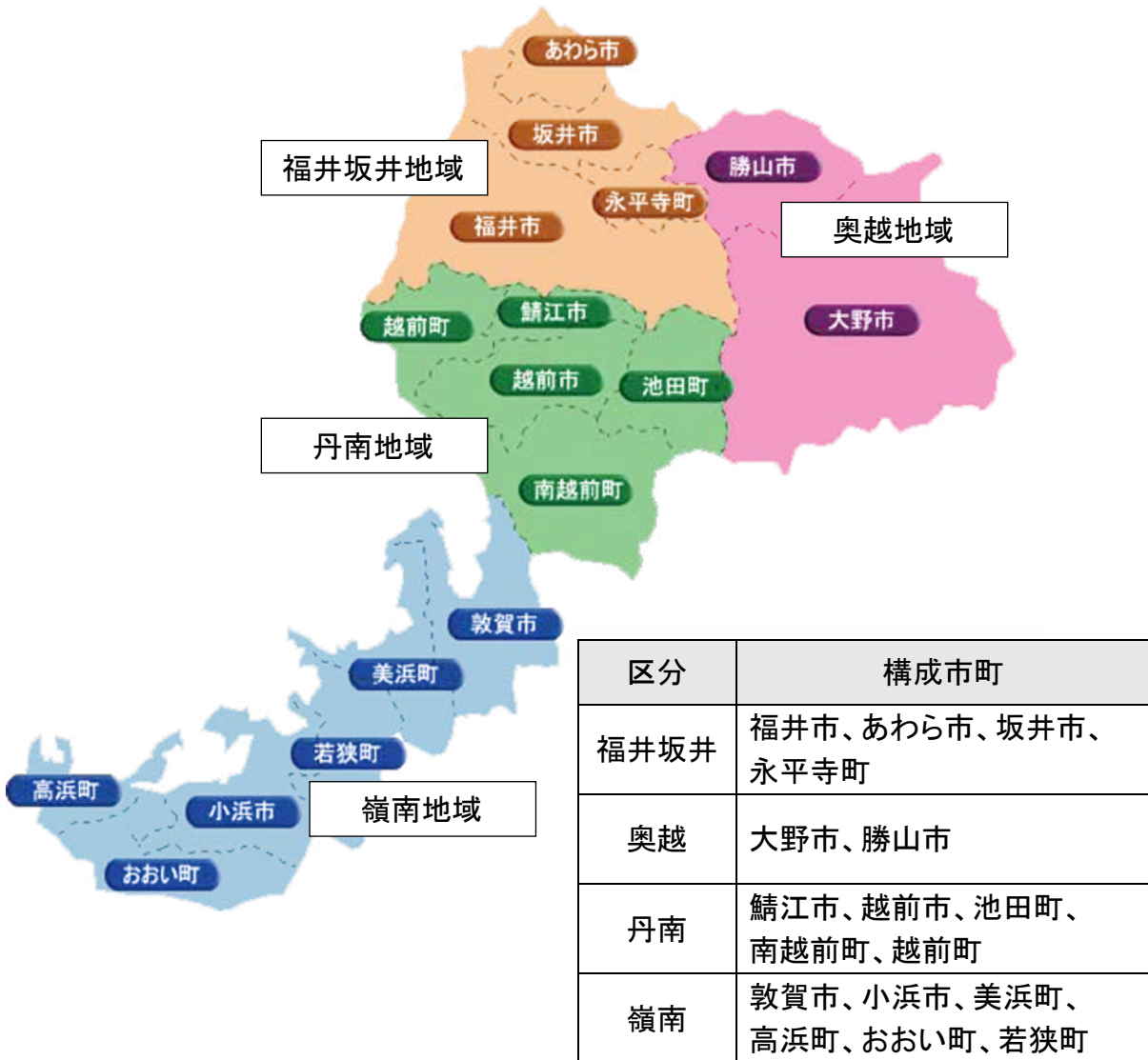


(6) 地域別の将来像

福井県は日本海沿岸から内陸・山間部まで自然環境の変化に富んでおり、また、歴史・文化的背景や、産業、人口・都市機能など、様々な分野で地域ごとに特色が異なります。県全体だけでなく、地域の特色を踏まえた2040年の将来イメージを共有し、市町とともに実現を目指します。

〔地域区分の考え方〕

自然的・社会的条件から一体性を有し、これまでも広域的な視点から行政が進められてきた「福井坂井」、「奥越」、「丹南」、「嶺南」の4つの地域に区分し、将来像を示します。





〔2040年の高速交通インフラ〕

2040年ごろには、北陸新幹線、リニア中央新幹線ともに大阪まで全線開業していると考えられます。また、中部縦貫自動車道の大野油坂道路も完成し、東海北陸自動車道に接続しています。舞鶴若狭自動車道（若狭さとうみハイウェイ）の4車線化も進み、冠山峠道路も開通するなど、福井県が東西南北に開くゲートウェイが完成しています。

これにより、奥越地域は中京方面への東の玄関口になるとともに、福井から中京までつながる「東西交流軸」の拠点となります。丹南地域は岐阜県と通じて中京圏と直接つながり、そして嶺南地域は関西との近接性が一層高まることとなります。

さらに、福井の空の玄関口である小松空港に加え、敦賀港の鞠山南国際物流ターミナルの整備やスマート港湾化等も進み、陸・海・空の各方面で本県の立地条件が高まります。

本県は古来、奈良・京都の都に近い、「こしのみちくち（越前）」であり、日本海側の中央に位置する東アジアの玄関口でした。高速交通網が完成する今、改めてその優位性を最大限に発揮し、県勢を大きく飛躍させていくことが重要です。



## 福井坂井地域

## 〔特長と変化〕

- ・あわら温泉をはじめ、東尋坊や永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡など集客力の高い観光地が多く、観光客入込数の約4割を占めています。
- ・テクノポート福井のような大型産業団地や、大学・研究機関、産業支援機関が多く立地し、産業活動が活発であり、県内の製造品出荷額の45%を占めます。また、県都福井市を中心に都市機能や商業機能も集積し、県内の商品販売額の7割を占めています。
- ・福井平野や坂井北部丘陵地は、水田農業や園芸生産の盛んな地域です。九頭竜川パイプラインのような基盤施設のほか、県立大学や試験場などの人材育成・研究開発施設も立地しており、スマート農業など新しい取り組みも進んでいます。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業時に、福井駅・芦原温泉駅の2つの新幹線駅が開業するとともに、リニア開業時には福井―東京が2時間あまりで結ばれます。中部縦貫自動車道の県内全線開通により、北陸自動車道、福井港丸岡インター連絡道路など高規格道路の結節点になります。



## 〔福井坂井地域の将来イメージ（2040年）〕

- ・歴史を活かした県都のまちづくりが進捗。永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡や三国湊、丸岡城などの歴史遺産、東尋坊、あわら温泉など、福井を代表する観光資源が集積する **歴史と自然が調和したにぎわいエリア**
- ・繊維や化学、機械などの企業、産業支援機関、大学などがオープンイノベーションの推進により、 **革新的な技術や製品を生む未来産業創造エリア**
- ・県立大学や園芸カレッジ等による人材育成と、スマート農業、園芸導入による複合経営、食のブランド化により **新たな価値を生み出す食と農のプラットフォーム\*エリア**
- ・自動運転やMa a S、オンデマンド交通\*など、県民や観光客にとって **新たな移動手段が実現する先端交通エリア**

\*プラットフォーム：総合基盤

\*オンデマンド交通：利用者の予約に応じて運行される交通システム



歴史と自然が調和したにぎわいエリア



食と農のプラットフォームエリア

## 奥越地域

### 〔特長と変化〕

- ・ 白山国立公園や奥越高原県立自然公園に指定されている緑豊かな地域であり、スキー場を含め自然を活かしたアウトドア施設が多く立地しています。また、年間90万人を超える観光客が訪れる恐竜博物館のほか、平泉寺白山神社や「天空の城」越前大野城など、歴史・文化遺産も高い評価を得ています。
- ・ 地域の85%が森林であることから森林面積は県内で最も広く、林業が盛んであり、間伐材等を活用する木質バイオマス発電所も稼働しています。また、サトイモや勝山水菜など、山・里の恵みも豊富です。
- ・ 中部縦貫自動車道の県内全線開通により、大野一名古屋間は約2時間となり、北陸と中京・東海の経済・観光圏が一体化します。奥越地域は、本県の東の玄関口となるとともに、福井から中京までつながる「東西交流軸」の拠点となります。



### 〔奥越地域の将来イメージ（2040年）〕

- ・ 日本一の星空にも選ばれた六呂師高原や刈込池の雄大な自然と野外活動、天然記念物に指定された恐竜化石や発掘現場など、**ほんものの大自然を体感するエリア**
- ・ 福井と中京を結ぶ「東西交流軸」の拠点として、産業団地や道の駅を中心に**新たに人や企業が集まり交流する新産業集積エリア**
- ・ 中世宗教都市の歴史を感じる白山平泉寺、越前大野城やその城下町など、**奥越前の歴史遺産ブランドエリア**
- ・ 農地・森林を保全し、その豊かな農山村の資源を活かした農林水産業の振興と6次産業化による、**にぎわいと活力の里地里山ビジネスエリア**



大自然と歴史遺産のブランドエリア



世界一の恐竜研究・体感エリア

## 丹南地域

### 〔特長と変化〕

- ・世界有数の産地である眼鏡産業や機械・電子機器など、製造品出荷額が県全体の4割を占める「ものづくり」のとても盛んな地域です。近年は、IT企業のサテライトオフィス<sup>※</sup>等も開設されています。

※サテライトオフィス：都市企業の地方拠点

- ・越前和紙や越前焼など5つの国指定伝統的工芸品の産地が集積する国内でも特徴的なエリアです。近年は、越前古窯博物館のオープンなど拠点整備も進むとともに、体験型の産業観光も盛んです。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業時に設置される南越（仮称）駅は、丹南地域の中心部に位置するとともに、北陸自動車道や国道8号にも近接しており、地域の新たな拠点となります。
- ・冠山峠道路（国道417号）の開通により、岐阜県西濃地域を經由した往来が可能になり、中京圏との交流が年間を通じて拡大します。



### 〔丹南地域の将来イメージ（2040年）〕

- ・越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前筆筒の5つの伝統工芸や眼鏡・繊維など長い歴史を有する地場産業と電子・化学等ハイテク産業が集積し、**伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア**
- ・高い技術を有する地場産業や先端技術産業、豊かな自然を活かした農林水産業などに魅力を感じて集まった移住者、女性、外国人など**様々な人たちが共生しチャレンジするエリア**
- ・越前海岸における越前水仙などの景観、生き物に配慮した環境保全型農業の水田地帯、北国街道の今庄宿や鉄道遺産など、**行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア**
- ・伝統的民家や農家民宿などに滞在し、伝統工芸・クラフト体験や農業体験など地域の営みを楽しむ**新たな「しごととくらし」の観光エリア**



伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア



行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア

## 嶺南地域

### 〔特長と変化〕

- ・リアス式海岸に形成された三方五湖や蘇洞門など若狭湾の自然景観、越前一之宮・氣比神宮や本堂が国宝指定の明通寺などの由緒ある古刹・仏像、日本遺産にも指定された鯖街道や北前船などの歴史遺産、地質年代測定の世界標準である年縞、ふぐ・へしこ・梅といった海里の幸など、観光資源が豊富であり、県全体の観光入込客数の27%を占めています。
- ・国内最多の原子力発電所が立地し、半世紀にわたって関西地域への電力供給に大きく貢献しています。また、様々な原子炉が集積する特徴を活かし、原子力・エネルギーの研究開発や人材育成の拠点を目指した取組みを進めています。
- ・北陸新幹線全線開業により小浜ー京都間が19分で結ばれるなど、立地条件が劇的に変化するとともに、舞鶴若狭自動車道の4車線化や敦賀港の物流機能強化などの整備も進み、関西と嶺南が一つの生活・経済圏になります。



### 〔嶺南地域の将来イメージ（2040年）〕

- ・京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育て環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせるくらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」
- ・スマートエリアの整備、デコミッションング（廃炉）ビジネスの育成、新たな試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、**人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア**
- ・新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア
- ・人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを学び、交流する伝統文化を学び体感するエリア





くらしの先進地 WAKASA リフレッシュエリア



人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア

